10.

大臣
次官
○政務
通商
人事
會計
取調

No.二五〇四

遼陽發 四年六月二十二日后五、
李者着 仝 四后二、三

外務大臣 遠水副領事

第三号

都督府ハ去ル二十日 烟台守備隊ヲ
奉天地盤撤ラ禁止スル命令ヲ發セリ

1-1809

0107

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

平文

支奏番　41

迅水公使

在

電送第一八三號　昭和廿七年七月二日　午后　時　分發

帝原

青馬代理大使ノ来訪ニ関シ

畑参事官ヨリ別紙ノ如キ報告アリタル

外務省

17

1-1809

0:08

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

機密第一三〇號

撫順千金寨炭礦ニ関シ王承堯ノ陳述報告ノ件

撫順千金寨千山台炭坑ハ株堀者タリシ王承堯ハ去九月廣東ノ方豫子溝軍ノ中ヨリ罷リ帰リ同人北京ニ赴キ奉天ニ来リ商館ヘ趨ヒ炭礦ニ付該炭坑ニ関シ同人カ実際如何ナル程度迄経営ヲナシタルヤ問質シタル所ニ対シ同人陳述シタル處ハ左ノ如ク有之尚曩ニ夜報告置タル通リ同人ハ満鉄會社ト商議ノ為メ近日中大連ニ赴ク筈ニ相成居タル王承堯カ初メテ千山台炭坑試堀ニ着手シタルハ光緒二十七年ノ二月ニシテ七月ニ至リ壕裡得事ヲ其ノ株堀許可ヲ奏請シ同年九月其許可ヲ得楊柳堡河以西古城子ニ至ル間ノ坑区トレテ株堀スルニ至リタル其坑区ハ凡テ民有地ナルカ故ニ或ハ之ヲ買収シ或ハ相借シ差ヲ質物トシテ収用シ資本金ハ銀十万両（初メハ十六万両ト称シタルモ通勝銀行ノ出資ヲ請フスルニ至リテ清国人ノ出資ハ十万両通勝銀行ノ出資六万両ナリト言フ既メタリ）ニシテ株百両トシ廿七年ノ春ヨリ募集ニ着手シ廿八年ノ春ニ至リ拂込ヲ終リタリ廿七年八月頃ヨリ出炭ヲ始メ工夫二三百ヨリ五六百ヲ使役シ廿八年ノ頃ヨリ多少之ヲ増加シ毎月ノ出炭十万斤ニ達シ多キハ七八十万斤ニ至ル坑口ハ凡ソ五ヶ處ヲ穿

機密受第1718號

11

在清國奉天日本總領事館

明治四十年七月五日接受

ケタリ會社ハ其ノ興利ト名ヶ本社ヲ千金塞ニ
支社ヲ奉天城内ニ置キ王承堯自ラ絲綿ノ任ニ
當リ外ニ執事ノ即チ支配人トシテ張寶瀛ナルモ
ノ及把頭即チ株堰監督者トシテ劉寶隆及
隋廣恭二名ヲ使用シ本社ハ使用人五六十名支社
ハ使用人十餘名上下凡ソ清國人ニシテ外國人ヲ用ヒ
タルコトナシ光緒二十八年三月ニ至リ通勝銀行
ヨリ六萬兩ヲ出資スルコトヲタルニ依リ之ニ相當スル株
券ヲ交付シタルガ其株金ハ必要ニ應シ隨時通勝
銀行ヨリ引出シタルモノナルガ故ニ六万兩凡ソ受取
リタルニ那スヒヲ實際引出シタル額ハ三万七千五百
兩ナリ本通勝銀行ハ出資ハ單ニ株主トシテ
加入シタルニ過キサルヲ以テ無論之ニ対シテ利息ヲ附
スルコトナク又銀行ヨリ事務員又ハ帳簿監査
等ノ爲メ會社ニ人ヲ入レ置タルコトナク其他之ニ関
シテ何等ノ條件ヲ結ヒタルコトナシ又株堰ハ石炭
ハ凡ソ受四百名人（清國人）トノ間ニ豫メ買渡
契約ヲ結ヒ置キテ金新之ニ引渡スモノナレバ直接ニ
露國鉄道ニ賣渡シタルコトナク又本樣ノ契約ヲ結ビ
タル事ナクハ買名人ノ手ヨリ鉄道ニ賣渡シタルコ
トハ有ルベキモ大体ニ於テ該石炭ハ露國者ハ室ニ清
國人ヲ日露開戰後光緒三十年十月ニ至リ露
兵ハ該炭坑株堰ヲ無代價ニテ強制的ニ運搬
シ去リ又其事ヲ某ヲ向ヲ株堰ニ從事シタル処
モアリタルガ露軍ハ退却後三十一年三月七日ニ
至リ初メテ日本人小山田徹助ナルモノ来リ進ヘテ數

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

日ニシテ日本兵ニ来リテ該炭坑ヲ占領シタルカ當時
現在石炭ハ約八百方斤ナリ其後小山田ニ代リテ
加藤壽久衛門ナルモノ来ラタルカ同人ハ極テ温良
ナ人物ナリシ該炭坑経營ニ関スル書類ハ兵燹ニ罹
リテ焼失シタルモノモ少ナカラサルカ同下現存セルモノハ納税
帳簿日用帳簿株式台帳及坑区地所買價典
買ニ関スル地券及契約証書等ニシテ何レモ北京ニ殘
ニ置ケリ又株券或可ニ関スル請願書モ現
存シ居レリ云々
右王承堯ノ申立ハ必スシモ全然事実ニ符合スルモノ
トハ雖信シ得サル前来據順炭坑問題ニ関係シ
テ我方ニ得居ル報告書及同所書ニ金額スル為モ
不少ニ付尚不審ノ点モ有之ニ付者ハ別示シ
在清國奉天日本總領事館
從テ更ニ所調ノ報告ヲ可及ス
右王承堯ノ申立中「株資額ノ問題ハ彼ノ申立ヲ
率実ト仮定シ到断スル時ハ露清銀行株資ノ
分六萬兩ハ少クモ王ニ向テ賠償ス可キ性質ニ無之
ニ付王ニ対シテハ多ク見積リ過ギタルモ十萬兩ヲ生ス対ス
當方ハ十萬兩ニ対シテハ尚本詳細政究ノ上ハ彼カ
之ニ依リテ収得シタル利益モ亦減算スル處ノ有之
而シテ結局ノ額ニ対シ地券及契約書ヲ我方ニ収
得スルモノトスレハ必スシモ無益ノ賠償ニハ無之筈ニ用
下清國側ノ懸案ニ属スル千金案我収用地ノ
賠償問題ニ関シ我賠償額ヲ削減スル効果ヲ有之
ト存ス日所後王ニ対スル賠償ノ縁ヲ考案ノ如ク南
滿會社ノ株券ヲ以テセス現金ヲ一時ニ下附シテ本案ヲ

清掃報度ト存ス

右取調ノ目下ノ程度ニ於テハ意見改正ノ要尚結局ノ意見ハ今後ノ調査ノ次第ニ依リ更ニ政究可報ト存ス

右條ヲ及電報ス敬具

明治四十年六月廿四日

在奉天

総領事 萩原守一

外務大臣子爵 林董殿

在清國奉天日本総領事館

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No. 二七六九 暗

遠陽發
第四十五号 七月七日午後九時
八日前四時

山座臨時代理 福島局長 遠藤主任

福島組炭鑛試掘ノ件都督府
トシテ域内ノ鉱業ニ関シ都督府ヨリ満鉄ノ権利
侵害スルモノニ対シ如何ナル名義ニテモ
個人ノ採掘ヲ允スヲ得スト回答アリ又
指示ノ趣旨ニ基キ引続キ差控ヘサル故
試掘ノ指図ヲナスヲ得スト謂フ為シ
公使ハ之ニ対シ都督府ヘ申傳今アルカ
或ハ満鉄ニ命令シテ協議セシムル様申

帝原

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第17門

電送第八三號 明治五年七月八日 外務卿 寺島宗則

中第四〇号

山縣

中第四〇号 烟台実況中

三枚已ニ有馬但ニ於テ採掘相

ヲ有之清国人ト合同契約ヲ

結ビ已ニ右実況明白ニ付

外務省

当役計ヲ立ツ為メ技師ヲ

派出セントヲ中出アタ〜ル依テ

兼勢就トモ本使上之ヲ許可

シ更ニ官庁ヲ開ク仮令状ヲ

交付シ五年ヲ無変ニ付ル仮ニ於テ

ハ国産ノ使用ヲ試ミ如ク

決シテ越ス所ニ於テ者リ

日人ハ権利ヲ要求シ自ラ怪怪
ナル者多シ考フルニ紙幣ニ依ル
ヲ許可セザルベカラザルナリ

外務省

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

12

機密受第1767號

明治四十一年七月　日接受　機密第七九號　政務局

撫順及煙台炭坑問題ニ関シ清国政府ヨリ更ニ抗議ノ件

本件炭坑問題ニ関シ清国政府ヘ照覆ノ次第ハ五月十一日付機密第六十五號ヲ以テ林公使ヨリ報告相成候處右ニ對シ又々別紙写ノ通外務部ヨリ抗議シ来リ要スルニ奉天官憲ノ回報ニ基キ千山炭坑ガ露国ノ経営内ニ在ラザリシ事實ヲ縷々辯明シテ之ガ交還ヲ迫リ且ツ煙台炭坑區域ノ劃定ヲ求メ之ニ對シ我田引水ノ請求説趣候惟フニ本件ニ関シテ論議ヲ重ヌルハ我利益ニ非ズ殊ニ詳細ノ点ニ亘リテ相争フハ最モ我レニ不得策ト存セラレ候ノミナラズ既ニ前回ノ照覆ニ於テ論述セル所ハ帝国政府ノ確定ニシテ万一清国政府ヨリ重ネテ交渉ニ接スルコトアルトモ毫モ之ヲ変更スルノ餘地ナキニ由リ此義ヲモ併セ聲明ニ及ブベキ旨訓令アリシ旨開陳致シ置候間本官ハ別紙及対ノ御訓令無之限リ清国

在清国日本公使館

1-1809

0116

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

政府ニハ何等照復ヲ致サヽル者ト
有之候条右様御承知相成度候
蓋シ今後若シ南満鉄道会社
ニ於テ帝國政府傭ヲ以テ命ト
墨キ本邦ニ於テ利害関係ヲ有ス
ル清國人ニ相当ノ金額ヲ給與シ
テ世論ヲ除去スルコトニ成功ス
ルニ於テハ如実ナル間人的利害ヲ離
レタル結果畢ニ清國政府ノ支持問
題トシテハ如ノトモ其気魄ヲ奪ハ
レタルガ如キ感ヲ世ジ風ハ遂ニ注
度入ニ至ランベキカトモ存ぜられ候
右申進候敬具

明治四十年七月一日

在清國日本公使館

在清國臨時代理公使阿部守太郎

外務大臣子爵林董殿

追テ本信写ハ当地ニ於テ
奉天總領事ニモ追附送付
候

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

13

寫 外務部照會

為照會事案查奉天千山台煤礦及煙台煤礦內之尾明山外二處均須交還一事本年三月二十九日接准來照當經本部咨行奉天將軍轉飭查明見復去後茲准奉天將軍咨稱札據交涉總局呈稱千山台煤礦經前憲台增奏准職商翁壽王承堯分股開採乃屢次爭要於是翁壽則以延請礦師為名攙入俄官亞果夫陸賓諾夫及中籍俄商之紀興台王承堯則以資本不足攙入華俄銀行股本六萬兩嗣因名擅俄人不守合同強佔礦產經前憲台撤將紀興臺之合同批銷作廢翁壽所分之礦地歸併王承堯而華俄銀行之六萬兩據以咨部經外務部咨行前憲台增未便准予立案是翁壽所入之俄股有撤銷之案可據王承堯所入之華俄銀行股分無危推之案可憑即有華俄銀行入股證據亦係入股人所辦入股人所有之礦藉軍政時代徵發該礦為俄人所有之礦地不得因有俄股在內辦理為煤勒遂繼續以商股佔株等情查此案現據王承堯面稱並非與俄人合辦之礦前次所招華商股本十萬兩均有股票存根可驗後招華俄銀行股本亦未

在清國日本公使館

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

收齊、且僅有股東之利益、實無經管之權限、此次日總領事照稱其政府已認該礦在南滿洲鐵路附屬事業範圍之內、至論中俄東清鐵路造路原約所有該公司用採沿鐵路礦產如何限制、雖議而未定、將來終須另商辦法、不得盡歸入公司附屬之事業、即據中日會議節錄第十節而言、亦應從中俄兩國或華商未用之礦開之礦、與中俄兩國已議另訂公允詳細章程、豈能以華商稟辦各礦、奏明有案者、強指在內、除飭王承烈堯侍當時招股實據詳細稟陳再行咨呈外、請先行照會

在清國日本公使館

日本駐京大臣秉公處理等因前來查此事迭經本部照會

林大臣暨貴署大臣在案、現據王承堯稱千山佑煤礦、確係招集華股十萬兩、均有股票存根可驗、即係華商私有之產業、照約自應交還、雖該商續招少數俄股、當時並未收齊、本部亦經咨駁、未予立案、至貴王收府認該礦為開洲鐵路附屬事業、該礦在路附近三十里之外、迭經聲明有案、不得謂當限制、現日本軍政早已撤廢、若再久佔不交、實與中日協約

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

有背、相應再行照請
貴署大臣查照本部歷次照會、轉達
貴國政府、轉飭迅即交還該礦、以符約
章、而免商累、並將尾明山等處礦地、另
限一律劃清、仍希
見復、為盼、須至照會者、
右　照　會、
大日本國代理欽差全權大臣阿部
光緒叁拾叁年五月拾肆日

在清國日本公使館

1-1809

0120

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

14

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

17

No. 2840

暗

機密

西源四郎 明治卅年七月十三日 発 六八〇五

東京 外務大臣 大隈伯爵

林

閣下ノ通リ 在北京總領事ヨリ 電報ニテ 申上ケ置キタル芝罘駐在清國人ニ

尾明山（ビメイザン）及ビ張家口（テウカコウ）ノ採掘許可ノ件ニ清

ニ於テ採掘許可ヲ取消

今回南清海關總税務司ヨリ電報ニテ採掘許可相成ル

ヨリ煙台炭坑ノ件ニ就キ申出ノ次

第モアリ該尾明山（ビメイザン）及ビ張家口（テウカコウ）ノ二坑

区ノ許可ニ付キ七月廿八日付照會抗議

事ヨリ本年大將軍ヘ申通シ候ノ趣

意ニ依リ許可ノ取消ニ相成ル様

陳シタル處總裁ハ票中書ハ到送

ス

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No. 860

西部鉄道株式會社ノ事業ニ関スル件

昨日電報第四十七号ニテ及報告置キタル西部鉄道株式會社ノ事業ニ関スル件ニ付テハ本日閣議ニ於テ別紙ノ通リ決定セラレタルニ付テハ現在ノ状況ニ於テハ許可ノ取消方電訓アル様ニ思考セラレタル旨申出ノ趣ニ付テハ本件ハ一旦現在ノ状況ニ於テハ許可ノ取消方ニ付テハ更ニ後来ノ事情ニ依リ再考セラレタル上ニ於テ許可ノ取消方ニ付テハ電訓アル様ニ

政務局長　中村民政長官

取消方訓令ス

15. 8?, 1919

第17門

電送第1514號
明治40年7月13日2時0分發

大鳥公使 林

第七八号

天宝山ノ件北京談判ニ於テ
付テハ清国政府ハ我意見ヲ服
セズ今日迄抗議ヲ続ケ居レリ
随テ清国人ニ対シ許可ヲ与ヘシ
ムルコトハ[illegible]
諸般ノ紛議ヲ生スルノ恐アル内鉄
ニ於テモ右二坑迄ヲ元其欽有ニ
関セシムル事ナルニ於テハ清国ハ特許
（ニ在ル故ニ後 其特許状ヲ引上）
者[illegible]ハ不満ナルヘシ
ト思考ス[illegible]右二坑ハ目下如何ナ
ル状態ニ在リヤ至急電報アリ度
（貴方ノ第二号）

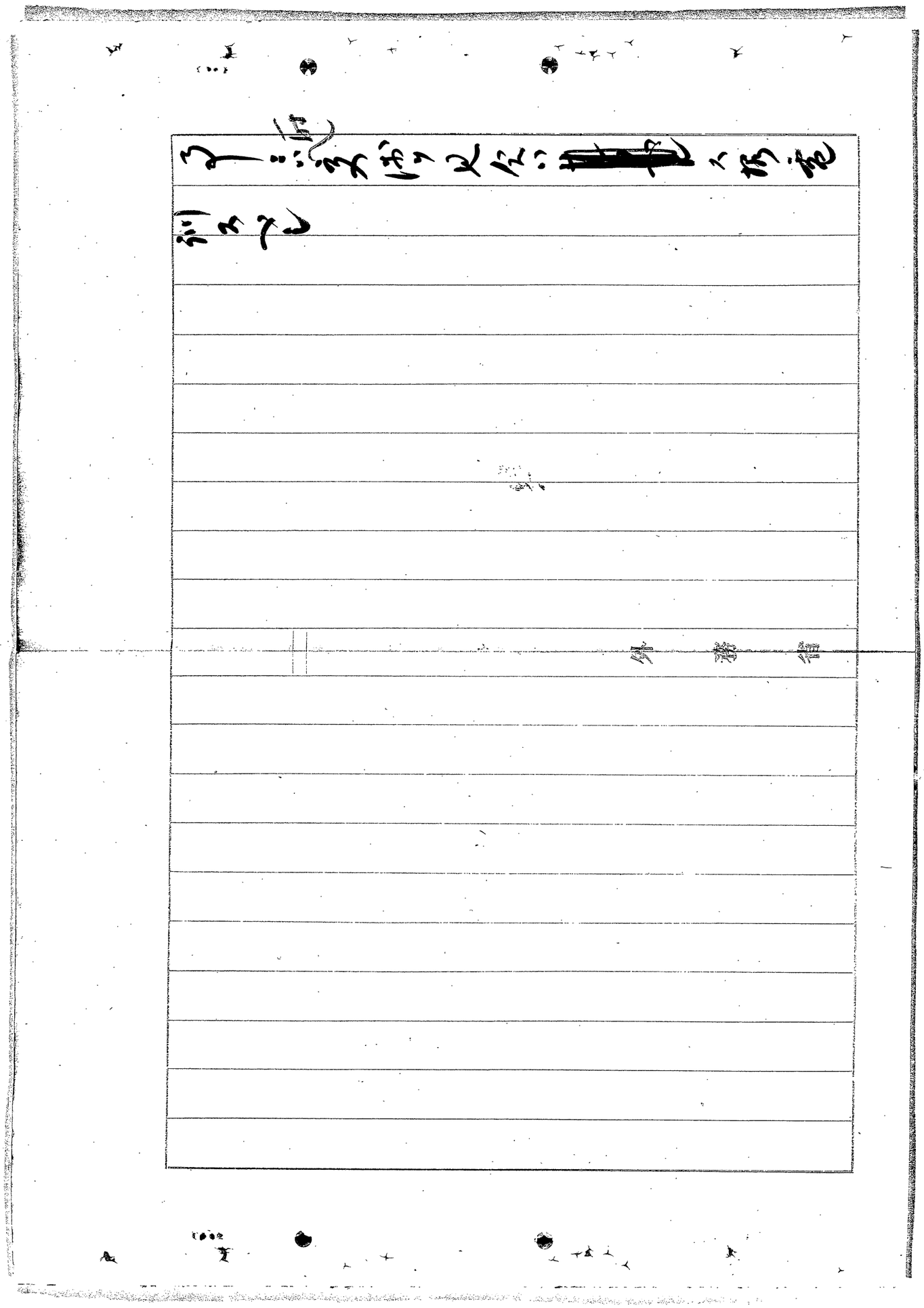
外務省

1-1809

0123

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



0124
1-1809

16

第17門

電送第1910號

明治40年7月13日後1時30分發

本電ハ貴信ノ如ク

巴里一二年

大同会議ハ仏国都督ノ勧告ニ

ヨリ一二二 米国ノ面子問題ニ

ヨリ我ノ清国ニ対スル交渉ハ

一時見合ハセラレタシ

外務省

第17號

明治　年　月　日起草
同　年　月　日發遣

電送第1916號
明治60年7月13日午後2時0分

主任

17

奉天

北京領事

第二号

新嘉坡電

第七八号

在上海

貴官

外務省

令文

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

機密受第4796號

機密 第五號

要目付了

烟台炭坑大橋清蔵ニ於テ私掘者禁止ニ関スル情況具報

去ル五月廿二日本邦人木村接防左ノ如キ旨ノ通書ヲ持参シ烟台炭坑中清人王振綱及ト共沛恩ノ所有坑區ニ去ル明治三十七年中採掘ノ契約ヲ結ビ今回資地調査ヲ為スヲ以テ相当ノ保証ヲ与ヘラレンコトヲ請求シ同時ニ王振綱ハ炭坑ヲ外人ニ譲与ノ件ニ付キ清官ノ嫌ヲ受ケ人ノ為メ牢中ノ由ナレハ一面ニハ同人ヲ救出ノ策ヲ講シ一面ニハ採掘ニ関スル調査ヲ為シ行ハル希望ナル旨ヲ告ケ其筋ニ対シ右煙台炭坑ノ事ニ就キ曾テ都任ノ途次奉天ニ於テ勃牙軍ニ面会ノ節烟台炭坑ノ採掘ハ日本ノ権利ナリトシ厳原總領事ヨリ尾明山等ノ區域ヲ除クノ外採掘禁止ヲ言ヒ渡シタリトテ之ヲ同軍ニ再三当惑場ニ於テ軍政署ヲ通ジ其筋ニ関スル書類等ハ一切紛失セリ故ニ木村ノ調査ヲ為サントスル區域ハ果シテ銭通沟等地外ナルヤ果タシテ採掘禁止區域ナルヤ其確実ナラサルヲ知ラス而シテ其方略ハ和新聞ニ接候千金案義ニ烟台炭坑ニ関シ林公使ノ清国政府ニ対シ最後ノ四条ナル旨ヲ掲載セシ右ハ事実ナルヤ否ヤ其筋ノ通知ニ接セサルヲ以テ御参考ノ為メ一応ノ調査セシト云フ炭坑區ニ付テハ林公使宛

在外公館

ノ地区内ニ可成之然レトモ此際木村ノ一方ノ要約者タル王振綱及ビ陪席員タルヲ英契約ヲ履行セシムル方針ニ執ルニ我カ政府宣言ノ主旨ニ基キ此ニ平指示ヲ与ヘ此ニ平易ニ手ヲ下ス能ハス

寇ニ角木村カ先ツ奉天ニ赴キ其原能統事カ聲明シタル迄ノ成行キ及ビ林公使ノ宣言ナルモノハ事実ナルヤ否ヤ尚ホ同ジ外ニ又トヤ木村ヲ奉天ニ行カシメ一方ニハ私信ヲ以テ在北京高尾商澤官ニ新聞紙載ノ林公使宣言ナルモノ実否ヲ問合セタル富五月二十八日ニ答ヘテ曰ク

四月廿六日ノ報ニ木村ハ奉天ヲ帰リ其言ヲ翻シ木村ハ奉天ニ於テ原能統事不在ヲ以テ拒絶シ奉天ニ於テ原能統事不在中ニ行ヒタル成行ハ文ハ別紙ニ文左ノ如ク林公使ノ宣言ハ

在外公館

宣言ハ事実ナルトノコトニ就テハ小官ハ木村ハ樹シ林公使ノ宣言以ニ事実ナレハ今回ノ調査ハ之ニ抗シ王振綱等ノ契約ハ我カ権利ハ為ニ之ニ対シ空シ

ハ当ニ之レ問フノ必要ナシ故ニ直チニ調査ヲ

撤シ烟台炭坑ハ於テ奉天人金恢公司義松機械大東公司福嶋山田又ハ清国天利公司等ハ大橋清等今回木村ノ調査ニ協力シ施サレタル

ハ何ヲ事実所等ノ大資格ヲ掲ケ盛ニ採掘ニ経事シ而ハ該地ハ既ニ国外ニ出ツルコトヲ守備隊ニ尋ネタルニ前守備隊（本年二月交代前守備隊ハ第十六師団第五十二聯隊ノ一部ナリ）ヲ

申し継に依り黙許に附したりと云ふ以上は此の
亂掘を行つ内い猶東京に成採掘を為さゝ不一方
妨害とす一日も早く此亂掘を禁止する旨
申出たるに付会議公司等の右の如き公然為す所の
常識を測へ難し法しく盜掘を為さゝ其
筋の許可を經たるものなれとも既に之を禁止
い先つ許可を与へ且所謂諸藩たりとも五
月廿八日満鉄調査役栽泉孝敬の来たり会し本
件を等及せしに常鉄い強固地の形成
上新堺方面川端の変化せし事実地の調
査を經せんに依り此際該炭坑を何方位
か一向不分明にして況んや採掘者禁止者の
間しい不法にして何等成行なしと云ふ嚮に五月三十
日吉内陸軍大臣巡視の際関東都督府木
下参謀を来着に付き同参謀に先つ本件を談
じ内交渉を都督府に委ねたる所
に付可とし見て決して之を許さ
彼等い貴方に於て正に盜掘地なる言
等の此為公然商投を掲ゲ人夫を使役
場を為し而して守備隊い敢て之を黙許に附すい或
い守備隊内に怪しき黙認や木下参謀も
亦多言を一の疑惑ちとの内談ち
太郎り金城公司等が採掘を行ふ事
ミしに又タ之に對し何等の要求を採掘許可の与へたる
事実なりしに守備隊たる採掘許否を度外
視して公司せしものなりと云ふ也今貴方之

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

上ニ而ハ其方上ノ方ニ出ル熱ヲ冷シ先ハ炭坑無ノ物ヲ成行キヲ問ヒ其外ニ一限今探索ノ地区ハ鉄道所領地内ト迄ヒヤ不ル所地トモ云ハ探索ノ例ニ依リ関東都府ハ熱暑ハ於テ禁ル命令ノ勅リ云フ順序トス（探索千金寨ハ任至ト関東都府ハ熱暑ニ於テ其位置ヲ為ス）其二鉄道ハ内地ハ鉄ニ於テ表面上四月ヲ都督府ノ引継ヲ受ケタルモノニ其際引継キヲ了セシ者、右ノ如キ地方ノ事ハ最初軍政ニ於テ継続事項ノ引継ヲ為シ撤退セシニハ一事件ノ義ハ其ヲ先ハ其根源ニ溯リ夫ヲ順次流下シテ解決ノ域ニ達セシムシテ本件ハ未タ其一ニ有ニ於ル諸種ノ方面ヲ有

森外公館

同ノ義ハ人後ノ解決ニハ西確ル鉄道所領地ノ間ノ如キ為ニ因テ六月三日ハ四下ノ二事清ニ又鴨鉄ニ而ニ事ハ都府ハ引継ヲ受ケタル所ハ而ハ今ハ一面本村ニシテ即有ニ而ハ安坑礦ノ事情ハ電報申セル置キ又去四月十一日山産改報ハ長ニ烟台安東県探索者ハ関東都府ハ後孫鉄道ハ会ハ林ハ山所ニ接ル電報ニ接シ若ハ結局ハ南ハ四千二ノ先ハ都府ハ考慮長ニ而ハ探索禁止ハ全例ハ公司ノ所為ト其ヲ不都合ニシテ人之ヲ禁止スルヲ加ハノ富分ノ富スルヲト思考スルヲ申置ヨリ又ハ鴨鉄ニ而ハ関ル探索地ハ都府ハ引継ヲ受ケタル区域内ハ不反関ル又富有ハ

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

了候ヘハ変更セル区域外ナルヲ以テ其採掘者ニ向
テ御カヽ禁止ヲ行フコトハ為シ得サル故ヲ知悉シ居リ然
ルニ數日ノ後ハ云ヘニ都督府ヨリ向当局ヘ照
セス而シテ炭坑ノ方ハ依然乱掘ヲ續行サルヽヲ
探知シ是ヲ以テ對シテ満鉄ニ交渉ヲ開始セシ先
ツ該区域ノ所管ヲ明ニスヘク同月十八日電報
ヲ以テ尾明山附近ノ坑区ハ満鉄ノ所有ニ係ル
シヤ否ヲ問ヒ直チニ回電アル様照会セシニ同月
廿日満鉄総裁ハ右炭坑ノ事ニ關シ
候ナルモ之レ從前ハ該坑区ヲ以テ鉄道附属ノ地ニ
シテ当然満鉄ノ權利ニ屬スルモノト認メタルヲ以テ現
時ノ乱掘者ヲ禁止スル為メ適当ノ方法ヲ取ラシムヘキ
ノ申込ミアルニ其翌日即チ二十一日都督府ヨリ

在外公館

電報ヲ以テ別紙寫ノ通リ都督府ニ於テ去ル二
十日附ヲ以テ採掘禁止命令ヲ守備隊ニ向テ發シ
タル旨通報ニ接シ同月二十二日直チニ電報致シ
副ヲ廿三日鉄道守備大隊長川端少佐来訪命令ヲ四
合金城公司及大東公司ノ清國天利八
因ニ對シ許区域外ノ採掘禁止ヲ命シ各々請書ヲ徴
シタリト告ケ之ヨリ左ルハ是ニ之ノ行掛リ上某シテ此
命令ノ履行ハ之レハ十分ニ執行セ採掘ヲ怠ラサ
ルコト因ナル月某ニ對シ採掘ハ依然行ハルヽハ闇
ナリ此上ハ当所ヨリ明ニ人ヲ派シ監視的行ヲ勧
ツ為シ結局禁止ノ実行ヲ確ムル様ニ取リ行ヒ爲ス幸
ヒ當得烟台炭坑鉄道線ノ終點ニ當ル一地区
ニ清人私有ノモノヲ大部所有者ヨリ通過ノ請願

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

[illegible]ハ其事地間生ノ名トシ達陽州
出張總旨ニ付合セ為ニ書ヲ以警部ノ德旨
[illegible]ニ依而本邦人一名ノ派遣ヲ[illegible]ハ
陽間事部時ニ[illegible]警部ヲ
回行ト同月二十九日煙台ニ出張シ[illegible]ノ調査ヲ
[illegible]リミナロ[illegible]ニ[illegible]ノ命ニ依ル[illegible]
[illegible]ニ作業ヲ停止ス大来公司及ビ清人側ニ[illegible]
ノ作業ヲ[illegible]ノ四視ニ付キ作業ノ停止
[illegible]ノ[illegible]ハ今回ノ採掘禁止ニ[illegible]
大橋訥（禁止医員）ニ於テ微候所ノ大来公司
[illegible]ヲ欲セラル[illegible]ヲ廉ヲ以テ春天鎮政調査ヲ
報告シ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]事ヲ其件ニ付テ関東都督ノ電訓ノ次

在外公館

[illegible]ヲ[illegible]ヲ採掘禁止ヲ[illegible]ハ最早解決
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]大臣ヲ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]

在奉天

[illegible]事[illegible]
[illegible]

外務大臣ヲ[illegible]林[illegible]殿
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]

1-1809

明治四年六月二十日

関東都督府陸軍参謀長神尾光臣

遼陽ヨリ撫順車中ニ孔路

本月十六日吹流者五一帰ヲ以テ煙台炭坑ノ義ニ付キ木村技師ノ実況視察書提出ノ趣ノ旨ヲ了承ス元来本炭坑ハ清国人ノ採掘ヲ禁止シ延十九日ニ至リ初メテ官ノ採掘ヲ許可シタル事実ニ鑑ミ其事柄ハ人ヲ因ノ出金ノ事件ハ直接干係ヲ生ジタル其ニシテ其ニ関係ヲ有シ居ル明カニスル為メ其顛末ヲ摘記ニ付本炭坑

在外公館

八礦区ニ分レ甚内五鑛区ハ事情特殊ニ付社ニ於テ買収シタルモノニシテ他ノ三坑区ハ清人ニ及ボシタル特殊ニ丈事情（別紙書類ニ記載シタル）ノ為メ清国官憲ハ従来ノ所有権ヲ没収シ以テ官営事業トシテ採掘ニ着手セントスル形迹アリシカ特ニ利権ノ清国政府ノ手ニ帰セサル前ニ於テ社ヲシテ仮ニ官ト称シ自ラ買収シ鉄道会社ヲシテ仮ニ経営セシメ方針ノ採リタル事情清国人ノ陰密隠ニ乗ジ仮掘シ先ヲ争フ一時ノ権宜上庚順山ト張家溝トノ一部ニ限リ清国人ノ採炭ノ無許可ニシテ此ノ如ク採掘ノ全廃迄ハ暫ク採掘禁止ノ命令ヲ発シ其ノ命令ノ実行ニ当ル事天授一年

1-1809

0:33

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ抗議ニ對シテハ明治年七月三十九日萩原總領事ノ回答ニ基キ一段落ヲ告ケ今日ニ及テ相ト無異
御外ノ採掘ハ所来高ノ如キ者有ト雖トモ其所有者ハ何等ノ命令ヲ受ケ又ハ告示有ル事ヲ
可ト云ヒエトナク又ハ官吏ニ於テモ告有ル事ヲ
ナクシテ叩ク採掘ニ關スルカ如キ者ハ全ク無
ミ義ト被認ル敢テ本邦官吏ハ長ハ内ノ
本邦人及吉有ノ即チ採掘者人
ニ對シ禁止命令ノ敷ハ全ク豆皆ノ命令
ヲ達シ置ク間遂ニ採掘者ニ對シテハ貴官ニ於テハ
自関ノ上商ニ豆ハ実ニ分明ナル為ハ考ヘ
萩坑ノ位置及其年七月保安禁止命令ノ
後ニ於ル顧末書提出ニ略図加添ハ此ノ為ハ
回答ス

森外公館

原文既ニ知ル如ク此ノ保安命令ハ
本年元ニ関シ明治年七月二十九日萩原
ノ抗議ニ對シ萩原總領事ノ回答ニ基キ
ハ其年七月三十日ニ出ス

添付書類ハ略ス

18

第17冊

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

2月9日 晴

寿天書 東京電報 第七十号 二月八日 六、三〇

林 外務大臣 殿

尾崎明山及ビ張家溝炭坑取扱ノ件

要旨ハ御指令ノ通リ本日ノ閣議ニ於テ決行シタキ意見御内定ニ付ス

右二ケ所ノ外燻台炭坑全部ト亘リ

日清人ハ密掘ヲ禁止シタルト拘

（キンジョウダイトウ 奉天省撫順県 公司）

（ヒメイザン 眉山）

（テンリコウシ 天利公司）

（ダイトウ 大東 公司）

依然密掘ヲナスノミナラズ清国人ノ家屋

ヲ破壊シ石炭ヲ搬奪シタル事

実ニテ帝国臣民中ヲ眉山ハ

清国人ノ天利公司ノ依然密掘中張家

溝ニ密掘スルモノ右三坑区ノ採掘禁

止ハ昨度一応二月ノ清国人ノ特許

状ヲ引上ゲタル上公然ノ搬置ヲ執ルヲ以

テ時宜ニ適ス思考ス

0:35
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

滿鉄ニテ尾明山及張家口ヲモ併セテ経營セントスル
ハ林公使ト清國政府トノ交渉ノ顛末ニ依レバ我政府
ニ於テ是等ノ炭坑ヲ清國人ニ採掘セシメザル方針
ノ如ク解セラルヽニヨリ會社ニ於テ経營セントスル
アリテ相當報酬ヲ與ヘテマテ之ヲ経營セントスルノ
意思ナレトモ右両炭坑ハ三十九年七月總領事
ヨリ滿鉄ニ於テ停止必要トスルマテノ條件ヲ付シ
許可セラレ之ニ基ツイテ現ニ採掘シツヽアリ

明治四十年七月十五日 午後二時四十五分着

別紙

19

第17円

電送第 1947 號 月 日
昭和60年 月16日 時分 緩

第八三號

支那ノ時局ニ関シ

各分ノ面会ニ際シ貴方ヨリ特ニ申シ出ラレタル事項ニ付テハ次ノ如ク了承セリ

一、貴方ノ申ス所ハ既ニ日本ノ方針ニ基ク

二、貴方ノ五ヶ条ノ内容ハ十分ヨク了解シ

三、貴方ノ希望ニ対シテハ出来ル限リ考慮ス

三、中国ノ国内問題ニ対シテハ

外務省

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

20.

第一四三號

王秀文

教示仰ク

在清国公使ハ特使ハ許人ト共ニ帰朝セラレタシ

但貴下ノ意見ナキ旨高答

只今電報アリタルニ付ハ

使ヲ指ノ分ナレバ電ス

電送第 号 號日長
明治40年7月16日發3時15分

外務省

1-1809

0:38

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

文書課長

明治四十年七月十七日起草
同　　日發遣

機密

政務局長

大臣

明治四十年七月十七日發送

明治四十年七月十六日接受

別紙

機密送第〇六號

外務省

関東都督

撫順千金寨炭礦ニ関スル王承堯陳述

撫順千金寨炭礦ニ関スル王承堯陳述別紙

移牒之件

帝国ノ通リ在奉天萩原領事ヨリ稟報有之ニ付御策定ヲ為サン為茲ニ及ヒ報告ス

追テ南満洲鉄道会社ニ於テモ伝聞（移牒ヲ要セス）司法ニ於テ取計ヒタル旨ニ付申添ヘ也

明治四十年七月十六日接受　外務省一七八号

（説文ヲ一二〇号文ニ添付）

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第17門

機密受第1861號

機密第九號

有馬組契約炭坑出願ニ関スル情況

其報

昨七日夜電報ニ依リ有馬組ノ契約炭坑出願ニ関スル情況ニ係ル炭坑出願ニ関スル東都ノ有力ノ人士ニ対シ懇談ノ意見ニ就キ其為後ノ所行左ノ通リニ付同日合電ス

今回有馬組ノ契約ニ係ル炭坑ノ出願ニ関スル情況ニ対シ則チ之ニ関スル東都有力者ノ希望ニ応シ之カ為メ都合有リ間ニ合フ様ニ之カ禁止ノ命令ヲ為ス

メ通ニ市町村警部ヲ派遣スルニ到リ其任果トシテ本月四日三鉄道守備隊ニ対シ天皇大帝長ノ先鋒トシテ多数ノ兵ヲ以テ其兵ニ当リ炭坑附近ノ部落ニ駐屯シ其区域内ノ採掘禁止ヲ命シ而シテ有馬組ノ営業ニ関シ他ノ作業禁止ヲ共ニ市町村ノ禁止マスヘキヲ予想シ有馬組森清右衛門ノ根候ニ於テ新聞紙ニ掲載シ其他同盟ノ決可ヲ得テ実行ニ移シ其他ノ支援ニ対シ一般ノ禁止ヲ為ス向キニ後特ニ前記ノ通リ行ハレ外部ノ命令ニ反シ有馬組ニ対シ四方ノ者ト云フ事ニ報ス

在外公館

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

とのこと想像致し候ニ付七月二日の有医組に係り実況調査の為め本日当地出張致し候旨当地方面の方に通知の上同時に其筋の実況調査の事に付き直ちに書面を以て該方へ掛合に及び候ハ、其筋の事に付き直ちに書面を以て該方へ掛合に及び候ハ、其筋の事に付き直ちに書面を以て該方へ掛合に及び候ハ、其筋の事に付き直ちに書面を以て該方へ掛合に及び候ハ、其筋の事に付き直ちに書面を以て

試掘の計画詳細の事に付き直ちに書面を以て

申出ずハ相成候命し置き候ハ、其筋の事に付き直ちに書面を以て

以て都督府に於て長官に対し面会の上

回答方の儀に付き日報と有医組に於て都督

府の意向を聞き其上にて本件に対する

利害得失に関し都督府に該実況の様

可なるへ、旨を通じ叩り試掘許

政府の賛同を得ん事を主旨とす

了解致したる旨を同一時に有医

組に向て満鉄総裁より該許可の電報

許可の満鉄より都督府へ通知せらるへ、旨

取計ひ方に関し直ちに後藤総裁に

支度方を大連着七月有医組の面々

に対し其結果総裁に報告致し候事に

付き直ちに書面を以て

なる故都督府に移牒の為め該三坑区

に領事に対し手続き書を提出保

留の為めとの為め地方有医組に完報致

候左に於て官に於ては手続の方

法なる結局本件に付き有の内移牒に依

り都督府に於て直ちに出願の

鉄に於て其試掘の為めに而して

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ノ外方法等之儀神奈川ニ於テ今回電報ニ而申越ノ趣ニ付テハ追テ可申越ノ事

明治四年七月八日

右達場

別紙写

外務省

明治四年長山座圓次郎

在外公館

1-1809

0:42

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

写

第陸部参第五三〇號

明治四十年七月五日

関東都督府陸軍参謀長神尾光臣

在遼陽

副官事速水一丸殿

諸件五六號ノ照会ノ件ニ付左ノ通及回答ス

一、烟台炭坑、東清鉄道会社績約第四條ノ主旨ニ基キ南満洲鉄道会社ニ於テ其全部ノ採掘ス[illegible]ノ権利ヲ有ス

二、南満洲鉄道会社ハ目下未タ烟台炭坑ノ所属区域ヲ定メス爾後実地踏査ノ上之ヲ決定スルトセハ其結果豫知スヘカラサルモ繁ス[illegible]ニ其礦区ハ相当ニ廣大ナルベシ

三、前項会社ノ権域未定ノ内ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ個人ノ採掘ヲ許スヲ得ス

四、南満洲鉄道会社ノ礦区決定後ハ若シ個人ニシテ会社権域内ニ在事セントセハ満鉄会社ト協議スヘキ会社権域外トスルモ固有ノ所有主ト協商スルヲ必要トス

右ノ次第ニ付キ此中越ノ有馬紋ニ烟台炭坑試掘許可ニ係ル儀ハ当府陸軍部ニ於テ難取計旨

同様ニ取計ス

在外公館

文書課長

明治四十年七月廿日起草
同 〃 七月 廿 日發遣

政務局長

機密

大臣

明治四十年七月廿日發送

明治四十年七月十八日接受 別紙

17

機密送第〇二七號

閣東都督

撫順及烟台出炭問題ニ關シ清國

撫順及烟台出炭ニ關シ昨年以來清國政府ヨリ屢〻抗議提出致来レル次第ハ既ニ貴方承知通リニ有之レ

右ニ付テハ本年五月林公使ヨリ清國政府ヘ照覆既ニ

外務省

ハ外交部同政府ハ折返シ右ニ対シ回答ニ来リタル趣ニ

有之委細ハ別紙在北京公使發来信写甲乙両号

ニテ御承知被成度旨申進レ也

別紙甲号トシテ五月十日付在清公使来状写一号乙号

七月十日受 外務省

1-1809

0:44

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第47号

明治　年　月　日起草
　　月　日發送

外務省

電送第2233号
明治40年8月7日3時3分発

第一五号

貴電第二三八號ニ關シ撫順炭礦用地
[illegible]
[illegible]トシテハ仮ニ忽卒ノ交渉
[illegible]
我會社ハ直接關係ヲ有スルモノト認ムル
就キ同社ト先ヅ会セノ上ニテ交渉ヲ
リタシ　又王子電気ノ件ハ貴下ノ金物ヲ信
[illegible]
シ[illegible]
現ニ阮ニ滿鉄會社ニ出張ス[illegible]カ如シ
[illegible]
[illegible]
セラレタシ、[illegible]直接會社ニ交渉

撫順炭礦

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No. 三四四九

（暗）

十五年八月十四日後六、一〇 奉天発
十五日前八、一〇 本省着

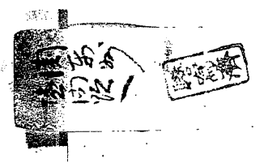
林外務大臣　　荻原總領事

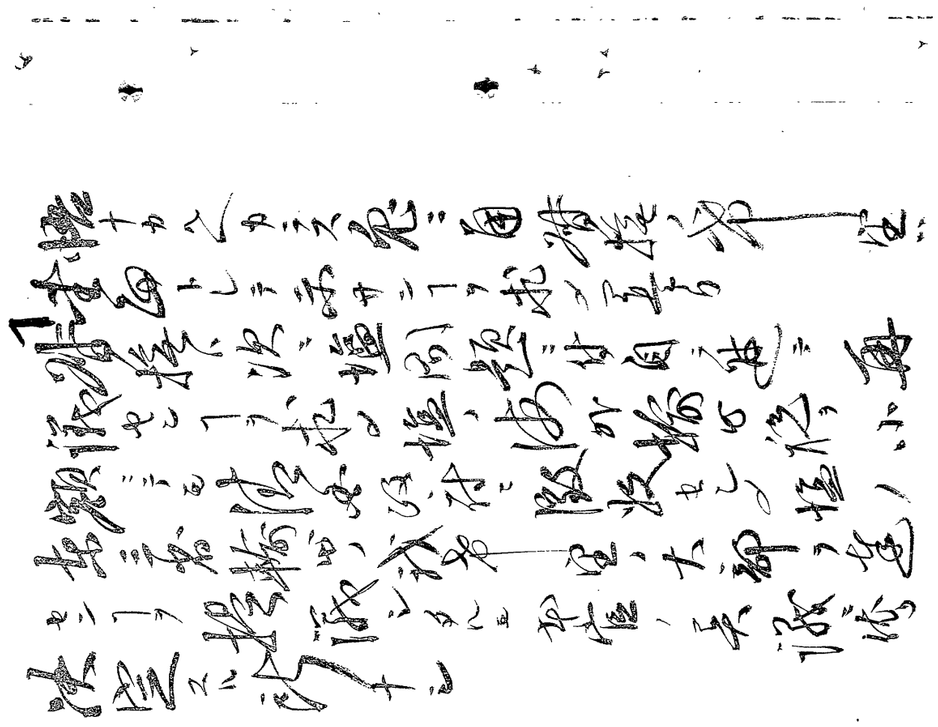
第一六二號

昨日ノ會議ニ於テ撫順ニ於ケル滿鐵ノ活
動ハ鑛山ニ關シテモ協定ノ必要アリ
此點ヲ先ヅ先決ニ撫順炭礦ニ關シ協
議ヲ為サンコトヲ求メ支那側會議録六
十三頁ノ決定ヲ援用シタルニ付本使ハ
之ニ對シ撫順問題ハ露國時代ニ滿鐵ノ
利益ヲ擁護セルモノハ本來ノ

往電[illegible]參照

本條約第一條ニ拘ハラス管理セラレタルモノニ
シテ會議録六十三頁ニモ清國政府ノ權ハ
此主義ヲ承認セラレタル文句アリトモ
撫順ノ權利ヲ承認セル所ニシテ甚シク我既
得ノ權利ヲ毀損セサル限リハ本件要
求ニ付テハ東京ノ上協議ニ應スルモ
知レスト述ヘ又撫順ハ撫順會議録六十三
頁ノ決定ヲ引用シテ協約ヲ否認スル
以上ハ撫順炭礦ノ外煙臺炭礦ニ限ラス奉天
省内ノ各種礦物ニ就キ協議スヘキ旨





1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

明治五年十月廿四日官報掲文

抜粋

樟脳ノ�té

樟脳ノ儀ニ付テハ別紙ノ如ク御取調ノ上ハ一応特ニ御許可ノ筈ニテ異存ノ儀ハ無之ト雖モ本年ノ如キ不作ノ年ニ当リ殊ニ樟脳ノ産出ハ僅ニ一部ノ特産ニシテ其利益ハ一般ニ及ブ事ニ非ス且ツ其産出ハ一定ノ場所ニ限リ其産出ノ多少ハ人ノ力ニ関スルモノ少ナク天ノ恵ニ依ルモノ多キ物ニシテ其利益ハ一時ノ僥倖ニ属シ其産出ノ多少ハ人ノ力ニ関スルモノ少ナク天ノ恵ニ依ルモノ多キ物ニシテ其利益ハ一時ノ僥倖ニ属シ其産出ノ多少ハ人ノ力ニ関スルモノ少ナク天ノ恵ニ依ルモノ多キ物ニシテ其利益ハ一時ノ僥倖ニ属シ

外務省

ハ特殊ノ者トナリ或ハ意ニシテ不公平ニ陥リ加フルニ近ク一部之ヲ特許スルモ如キハ情ニ於テ自大ノ利益ヲ制限シ其ノ利益ヲ失フ虞ニ陥ルナリ

一度特許ヲ与ヘ巨大ノ資本ヲ投シ其利益ヲ恢復シ能ハサル人民ハ保世自ノ権ト雖モ仮令ニ一部ノ人民ニ対シ特許ヲ与ヘ大ナル危地ニ陥ラシメ其ノ利益ヲ制限シ其ノ人民ニ対シ特許ヲ与ヘ大ナル危地ニ陥ラシメ其ノ利益ヲ制限シ其ノ人民ニ対シ特許ヲ与ヘ大ナル危地ニ陥ラシメ

況ンヤ他ノ人民ニ対シテハ其利益ヲ制限シ其ノ人民ニ対シテハ其利益ヲ制限シ

ルカ如キ、仮令ハ仮令ハ其他ノ人民ニ対シテハ其利益ヲ制限シ其ノ人民ニ対シテハ其利益ヲ制限シ

ノ様ニ御取リ計ラヒ願ヒ度ク御調査ノ上ハ樟脳ニ対シテハ其利益ヲ制限シ其ノ人民ニ対シテハ其利益ヲ制限シ

南部藩石ノ炭ノ量ニシテ僅ニ数百斤ニ過ギサルモノ

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

右ハ本会社ノ利害ノミナラス大ニシテハ帝国ノ利害ニ関
スル事其レ迄ニシテ少ナカラス候ニ付テハ何卒貴下ニ於テ御
考慮ノ上本件ノ事情ニ御理解アラセラレ貴下ノ限リニ於
テ可然御配慮ニ依リ本件ハ御高見ニ随ヒ或ハ貴大
臣ノ御指置ニ依リテ利害ヲ損セサル様御手配ヲ可賜
度此段得貴意候　敬具

昭和五年三月十四日

南満洲鉄道株式会社

総裁　男爵　[illegible]

外務省通商局長武富敏彦殿

本書ハ満洲鉄山関係参考書第一一冊ニ在リ

（別紙四）

外務省

1-1809

0149

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No三七〇二
暗

第二七八號

貴電第一五一號ニ關シ撫順炭鑛用地ノ件滿鐵ト協議ノ上佐藤少佐ヲ當方ノ委員トシ署撫ニ面會辯ヲ委負シ位金ニタルニ付知ニタルニ先方ハ周會辯ヲ委負シ位金ニタルニ付近ノ買地ニ就キテ査定ニ民有地ノ買上ヲ要スルモノハ之ヲ買上ルコトトスベシ 目下當地ニ滯在中ノ「モリソン」ハ王承堯ト懇意ノ間柄ニテ近時王ヲ通シ細ノ事ヲ公ニシタルニテ本官ニ對シ王ニ對スル賠償ハ秘密ニ付本官ハ之ニ對シ我方ハ撫順炭鑛ノ權利トシテハ王ニ對シ買フ如キ唯タ王承堯ノ情實ヲ汲ミテ若干カノ贈與ヲ為サンコトヲ評議中ナリト

奉天發
本省着 四十年九月一日 一三七
一三〇

外務大臣 萩原總領事

餘リニ少額ニ失セザヤトノ意味ヲ含ミタル

權利トシテハ王ニ對シ我方ハ撫順炭鑛ノ

王承堯ニ對シ買フ如キ唯タ

カノ贈與ヲ為サンコトヲ評議中ナリト

意味ヲ含ミ置ク

秘 後陸參第 号

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1-1809

外務省

明治　年　月　日起草
同　　年　月　日發遣

第17門

要電符号付ス

萩原

奉天　萩原総領事

林大臣

電送第二六二二號
明治四〇年九月一八日午後四時二〇分發

第一七九號

貴電第二九七號ニ關シ帝國政府ハ撫順炭坑ニ就テハ日清兩國協定ニ至ル[illegible]元ヨリ合辦[illegible]

[illegible]ノ時期ニ於テ[illegible]

[illegible]既ニ是迄カ[illegible]

外務省

撫順炭坑ニ関シ清国人王承堯ト ... ノ件

明治　年　月　日起草
同　年　月　日發遣

奉天
萩原 総領事

大臣 林

主任

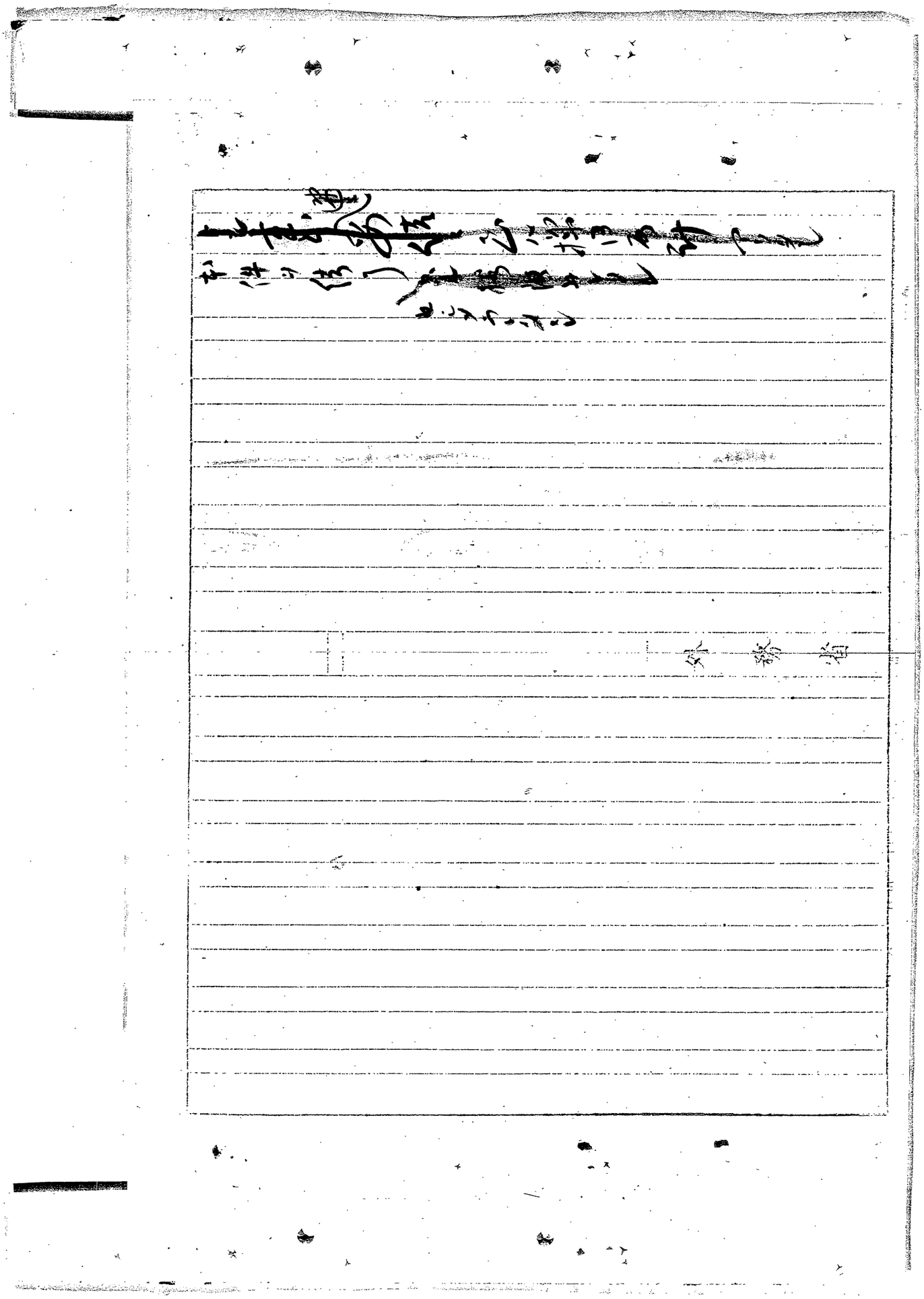
電送第二六四八號
明治四〇年九月二〇日午後三時四〇分發

第一三九号
往電第四一號ニ関シ撫順炭礦ニ係ル信義
ヘ右ノ趣ヲ傳ヘラレタシ

昨日清国公使ノ来訪ニ際シ王承堯
ハ閣下ニ面会ヲ求メタルモ其意ヲ果サズ
（三回）
ニ至リ面会ヲ求メタルニ佐藤少佐ノ面会
シタルニ右ハ前ニ貴下ニ面談セシ時ニ於テ
アリ来電アリタルハ世人ノ実ニ当惑スル所ニシテ
分明ナラサルモ王承堯ノ件ハ既ニ同人ノ
趣ヲ聞知ニ附シ ...

（欄外：趣ニ付速ニ貴下ニ面談セシメ其後ニ於テ ... 他ニ同人ノ希望ノ限リ速ニ面会セシメラレ度）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



0154
1-1809

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調
No. 4

4032
暗

西暦　昭和十年九月九日後發　本省着
林外務大臣　　大島部長

第四七號
貴電第一三九號ノ趣旨ニ通シタルニ
左ノ如キ成行キナリ
王承斌ハ是迄奉天ニ両面會ヲ求メタルモ
其ノ言ヲ果サザリシ外其後彼ハ旅行
中ニテ消息ヲ得ザリシ処成ル可クハ面
會セントシ彼ノ旅行先ニ間接ニ手ヲ廻
シツツアリ因テ彼来ラバ何時ニテモ面會
シテ事件ヲ解決セント考ヘ居レリ然レ共彼
ハ中々用心深キ男ナレバ北京ヨリ奉天ニ
歸ラザル旨聞キ及ベリ

1-1809
0155
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣 董

次官 [illegible]

政務 [illegible]

通商

人事

会計 第17

取調

No. 4045 晴

旅順発 輸送第四十号 九月二十三日午後四時四十分 二十四日午前十時十五分

外務大臣 大島都督

ノ八号

後藤ノ七号王弟発ハ奉天ニ於テ一度総裁ヲ訪問シタルモ総裁事故アリタル為佐藤少佐代理面会セリ其後総裁ニ於テモ面会スルヲ望ミ居ルモ彼旅行中ニテ果サス総裁ハ明日上京スルモ中村副総裁大連ニ居ルニ付何日来ルモ面会差支ナシ会社ニテモ早ク結果ヲ見ルコトヲ望ミ居レリ

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

26

敬啟者現准敝國外務部咨開奉天千山台華興利
煤礦公司一案前已商定由王承堯與後藤新平面議
茲據王承堯稟稱後藤回國延至六月間始由日本來
奉職商趨見乃辭以事煩僅命南滿洲鐵道株式
會社佐藤安之助與職商一晤詢以該礦情事則含
混支吾等情相應咨行貴大臣照請日外務省飭
催後藤迅與王承堯面議交還以期早為了結等
因為此函達
貴大臣請煩飭催後藤新平迅與王承堯面議交
還并希示復為荷專布順頌

時祉

大日本外務大臣伯爵林董閣下

楊樞謹具

第三百九十五號

光緒三十三年八月十八日

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

27

第八門

明治四十年九月廿六日起草
同　月　日發遣

主任

電信

譯文

大臣宛

清國公使

（ハ方秘密ニ成ル時ハ）

拝啟　今般敵國外務部ノ通牒ニ接スルニ奉

天千山台採礦興利煤礦公司ノ事件ハ前キニ

王承堯ト後藤新平ト面議スルヿニ取極メ

外務省

置候處此度王承堯ノ上申ニ據ルニ後藤帰

國ノ為メ延引シテ去六月中始テ奉天ニ来リ

タル故該高直ニ面會シ兼ネテ事務煩

忙ト称シテ面會ヲ辞シ僅カニ南滿洲鉄道株

式會社員佐藤安之助ニ命シテ該高ニ面談セ

シメ該案件ノ事情ヲ詢問（スヽ）曖昧ナル挨拶ヲ為

シタル趣キニ有之候依テ貴公使ヨリ日本外

1-1809

0:58

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

移有之照会し後藤ニ命シテ丑ニ王承爽ト
礦区還付問題ヲ面議セシメ此事件ヲ落着セ
シメラシ度トノ趣キ申来候間何卒貴大臣
より後藤新平ヲ促カシ丑カニ王承爽ニ面会
[illegible]
礦区還付[illegible]御取計被下度候
尚ホ何分ノ御回示[illegible]
[illegible]

外務省

1-1809

0:59

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

03:30

1-1809

28

機密受第2515/獅

機密

一七三

在清國帝國公使館

外務大臣子爵 林 董 殿

在清國帝國公使館

然領事 林 安 方

右電報

明治四十年一月九日十六時

発信

本文電信ニ接シ直チニ其筋ニ電報シ本官ハ本日十五時出発ニ
付ニ九七号ノ以ノ後報ニ接シ本官ハ本文電報ニ接シ
直チニ其筋ニ電報シ本官ハ本日十五時出発ニ付
右ノ通リ電報ス

在清國帝國公使館

外務大臣子爵 林 董 殿

在清國帝國公使館

然領事 林 安 方

右電報

明治四十年一月九日十六時

発信

本文電報ニ接シ直チニ其筋ニ電報シ本官ハ本日十五時出発ニ
付ニ九七号ノ以ノ後報ニ接シ本官ハ本文電報ニ接シ
直チニ其筋ニ電報シ本官ハ本日十五時出発ニ付
右ノ通リ電報ス

29.

寫

九月十四日會議ノ際督撫ヨリ提出ノ覽書

撫順一帶煤礦徒前經華人自行開採或與俄人合辦現在日人未經商妥而先行開辦者應傳集原有之華商另定詳細合辦及妥善章程

南滿洲鐵路沿線未開之礦產如該公司欲開辦者應指明何處何礦須先商定詳細章程

在清國奉天日本總領事館

1-1809

0:6:

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第17門

拝啓
先ハ七日（月曜日）午後二時ヨリ大蔵
大臣官舎ニ於テ各藤南満鉄首脳会社
役員ノ懇談ノ機会ニ関シ報告会有
之候ニ付 御繰合御出席相成度
依命此段得貴意候 匆々

昭和四年十月四日

大蔵大臣 田中長勝

外務書記官 長山産国次郎殿

南満鉄

大蔵省

昭和二年七月三日記録編纂係

1-1809

0162

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫

暗号　奉天発　東京着　明治四十年十月十七日午後六時二五分

林外務大臣　　萩原領事

第三三四号

徐領事不在中奉天ニ於テ清国官憲ト交渉問題ニ付テハ今後ハ隨時何等進行ヲ見ザルガ如キ奉線ノ礦山恨定ニ関シテハ清国官憲ト新民屯ノ撫順炭坑ニ関シテハ近ク当地ニ於テ会合スルトコロアリ之ニ対スル回答振ニ付テハ書面ニテ清州ニ出ツル筈ナリ

関東州ノ塩問題ハ奉天ノ定議ト新民府ノ抵抗ト合ニ依リ最後ハ清国側ノ提案ニ対スル我回答案ヲモ提出シ得ル様奉天ニ於テ徐領事ト協議セリ

外務省

一六七号ニ依リ報告ノ件ニ付テハ四ツノ問題ハ何レモ我方ニ有利ニ解決シ得ベキ筈ナリ

決定セル就中（一）遊技業者ノ家屋ニ進入スル四発及過発長ヲ處罰シテ撤去セシメ（二）屠牛場ニ於テ牛肉ヲ販賣セル支那人ヲ拘留シタル件ニ付損害ヲ賠償シ（三）鉄道附属地内我方處ヲ許可ヲ得ル人力車ヲ場内ニテ取扱ハシタル件ニ付セシメ（四）各處ニテ取扱ハシタル本邦人所有ノ食塩ニ対シ賠償セシメ（五）本邦人ノ運搬中ニ属スル銃砲ヲ差押ヘタル処置ニ付セシメタル等ナリ

右ノ内（二）ヲ除ク外皆趙将軍時代ノ出来事ナリ

1-1809

0:63

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

30

17

明治　年　月　日起草
同　月　日發遣

第　号

萩原

電信第2950號
明治40年10月22日前10時5分發

第一〇〇号

拓殖局坑ニ関シ至急報ス

外務省

ヲシテ至急復報セシメ
吉林政府ノ命令ニ
倉石ヲ送ンニ右照会ハ面談ノ要件
ヲ局坑ノ件ニ附テアリトセバ本日元ヨリ
我方ニ於テ同意スヘキ旨アラサルヲ同人
ノ事情ヲ斟酌シ若干ノ恵與金ヲ給
シテ若情ヲ一掃スル事ハ異議

滿州総領事館

1-1809

0164

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

申来 第五ナキヲ保セ 正ニシテ還附ヲ要求
スルカ如キ希望ヲ抱ケリ 尚ホ右ノ程度ニ於テ
面倒シ望ムニ於テハ 明治九年中 ト雖モ 至
極穏中村 副伍長 付ヲ 面会スヘキ者
統ス
四人 北海道 貴地滞在
本籍ヲ馬ト
シ居ルニ於テハ 親戚 共希望ヲ達メラレン
上 別紙 中村 ハ今年 ヨリ 出発
外務省
愛媛アリタシ

1-1809

0:65

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

31

敬啟者前次敝國外務部以奉天千山台華興利
煤礦公司一案咨由本大臣函請
貴大臣飭催後藤新平迅與王承堯面議交還於
本年八月十九日第三百九十五號函達
左右在案因未接准
貴大臣復函敝國外務部以據王承堯稟訴今又來
電催復為此函請
貴大臣查照前函飭催後藤新平迅與王承堯面
議交還並祈剋日
示復俾可電達敝國外務部知照盼甚感甚專布
順頌
時祉

大日本外務大臣伯爵林董閣下

李家駒謹具

第八號

光緒三十三年九月十九日

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

32

第17門

大臣
次官
政務
通商
人事
會計
取調

No. 4653 暗

奉天發
東京着明治四十年十月廿日后七、一五
廿一日前五、三〇

第三四〇號

林外務大臣　加藤總領事

貴電第二〇五號ノ件ニ付確メタルニ同人ハ目下當地ニ在ラス多分北京ニ赴キ居ルナラント云ヘリ我ヨリ急ク必要アルヘキニ付其筋ニナシ置ケリ

仮写

465

暗　　発第　　年月日　　合　七、一五
　　来電番号　　五、三〇

赤十字社大臣

加藤総領事

第三四〇号

貴電第二〇〇号

王兼充件コウシヨウシ

確メタル屬同人ハ目下南地ニ在ニスル為

出京ニ赴キ居ルナラント云フ我ヲ為ノ

他要ナカルベキヲ付其後ニナレ果ケリ

外務省

1-1809

0:68

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫

拝啓

[illegible]

[illegible]年十二月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左ノ方ニテ内閣書記官長ニ此段申出ル

但各国例ヲ知ル

[illegible]ハ　日本国政府ニ移ス[illegible]

外務省

1-1809

0170

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

34

寫

参照（第四号文書別紙）

撫順炭鉱

支公文ニ依レハ北京條約第一条ニ琿春ハポーツマス条約第六条ニ於テハ撫順炭鉱ヲ譲渡スルコトヲ提議シタルコトナレトノ説ニ意見ニ基ク所共ポーツマス条約第六条ニハ長春旅順間ノ鉄道及其一切ノ炭鉱ヲ補償ノ目的トシ又ハ公利益ノ為メニ政府ニ譲渡スルコトナリ且清国政府ノ承諾ヲ以テ日本政府ハ移転譲渡スベキ旨ヲ即チ換順炭鉱ノ如キ本来ノ目的ニ属シ公利益ノ為メニ既ニ譲渡セラレ居タルモノハ此ニ同条約ニ依リ日本ニ譲渡セラレタルモノニシテ而シテ貴政府ハ一九〇七年ノ北京条約ニ依リ露国カ為シタル一切ノ譲与ニ対シ清国ノ承諾セラレタルヲ以テ撫順炭鉱ノ譲与ニ確定シタルモノニ有之候哉

外務省

以右本件ニシテ清国本来ノ目的ニ於テ既ニ日本ニ譲渡シタルモノ一再ニ止マラズ且ツ撫順ニ於テ既ニ日本ニ譲渡セラレタルモノニシテ貴政府ハ一九〇七年ノ北京条約ニ依リ露国カ為シタル一切ノ譲与ニ対シ清国ノ承諾セラレタルヲ以テ撫順炭鉱ノ譲与ニ確定シタルモノニ有之候哉ノ疑セラレタルモノニアラザルコトヲ信ス

本会議録ヲ引援シ撫順炭鉱ハ鉄道附属ノ既得権ニ属シ日清ニ又他方ニ於テ小村侯ハ清国政府ニ対シ撫順炭鉱ハ鉄道附属ノ権利ニ属シ日本ニ譲与セラルベキ旨ヲ提議シタルコトヲ信ス

本会議録ノ規定ニ依リ南満洲鉄道附属地ハ清国ニ於テ撫順炭鉱ノ譲与ヲ要求シタルニ対シ日本ハ之ヲ拒絶シタルコトヲ信ス

本会議録ノ如ク今年ノ新聞ニ公表セラレタルモノニ世ニ全炭鉱ニ付キテハ明年五月十日付ノ以テ東京ニ於テ公使ヨリ貴政府ニ対シ満鉄ノ四倍ヲ敷シ帝国政府ハ地方ハ到底参考ノ為メ通告ス

成

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

居ル事ニ付此上合衆協ニ帰シ諸議ヲ重ネンハ如何
ノ職掌上許サヽル要ニ至ル之ヲ如何ト承ハ
詰ハ京都近附近碓山合衆ニ帰スル議定ヲ
オ一条事務ノ規定ノ如ハ全ク為国ノ熟ニ
実ヲ以テ此ノ際諸ヲ明ニ弱諸ノ徴シ来オ
ルヽノ丈ケ世ニ公ハ事来廣ニ体述ノ通テ之オ付
実方ニ於テ事態ヲ稽考セシムルヲ職心体ノ意ヲ
以テ如何ト定スル所主意ニ至ル之ヲ以ハ撫恤ヲ
題若シ公議定ヲ一条事務ノ如キ世家係ル
事件ヲ慎ヘシ如何ト碓定スルヲ以用意ス
第分ニ於ル上ハ議定ニ依リ如人採
堀ヲ所帰リ之和ヲ以用意ス

外務省

1-1809

0172

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

IN YOUR REPLY

REFER TO

Copy

Imperial Railways of North China.

ANSWER TO YOUR

.....190

From.....to.....

—McC. & Co., Ltd., Ldn.—10/06.

Dec. 20th 1907.

Dear Mr. Mogario,

Yours of 17th re Fushun coal for our line to hand. I referred the matter to Director, but he does not feel inclined to accept the offer as we are only paying 4.50 $ per ton for mixed 1/2 lumps and 1/2 slack coals at Tongshan. 唐山

The Tongshan coal gives more steam but is dirty and there is much ash but it is on the whole cheaper to use it even outside the wall where the descussed is far smaller than inside at present.

We expect to get our coal from Hsin Chiwat 新邱 3.50 $ per ton at L.C.W.P. 劉家窩舖. It is just like the Fushun coal in quality and we can then afford to use it exclusively outside the wall and perhaps even inside the wall too.

Yours truly

C. W. Kinder (signed)

1-1809

0173

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第17号

IN YOUR REPLY

REFER TO

Imperial Railways of North China.

ANSWER TO YOUR

.....190

From.....to.....

—McC. & Co., Ltd., Ldn.—10/06.

揮啓

陳者今回撫順炭ヲ切込度旨申ス銀六元ニテ奉天渡トナシ積換料金ヲ徴収セスシテ京奉鉄路局ヘ賣込マント尽力除ル外別紙写ノ如キ回答ヲ得ル間不取敢ず参考トシテ茲ニ及報告ス也

四十年十二月廿七日

奉天京奉鉄路官舎

曲尾辰二郎

山座政務局長殿

1-1809

0104

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

35

議甲二七

内閣送第五號

別紙衆議院議決撫順炭坑開發建議ハ貴省御主管ノ件ニ付右謄本及御回付候也

明治四十一年三月十八日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

外務大臣伯爵林董殿

内閣

第四七九号

1-1809

0175

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

36

別紙撫順炭坑開發ノ建議本院ニ於テ議決セリ因テ送付候也

明治四十一年三月十四日

衆議院副議長笠井浦勝人

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

内閣

衆議院書記官長林田亀太郎

1-1809

0176

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撫順炭坑ハ日露戰役ノ結果トシテ獲得シタル滿洲ノ寶庫ニシテ其ノ蓄藏億萬ヲ以テ計上スヘシ

今ヤ戰後速ニ我カ工業ヲ發展シ民力ノ增進ヲ企圖スヘキノ秋ニ於テ姑息ナル經營ニ甘シ徒ニ此ノ大富源ヲ曠土ニ放委スルノ理由アルヘカラス速ニ之ヲ開發シテ大ニ國富ノ伸殖ヲ計ルヘシ

右建議ス

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

37 17

文書課長

明治四十一年四月八日接受 64

明治四十一年四月八日達

政務局長

主任

日起草

日發送

外務省

樺太炭坑開發ノ件ニ付御答

樺太炭坑開發ノ件ニ付

樺太炭坑開發ノ件ニ付御答

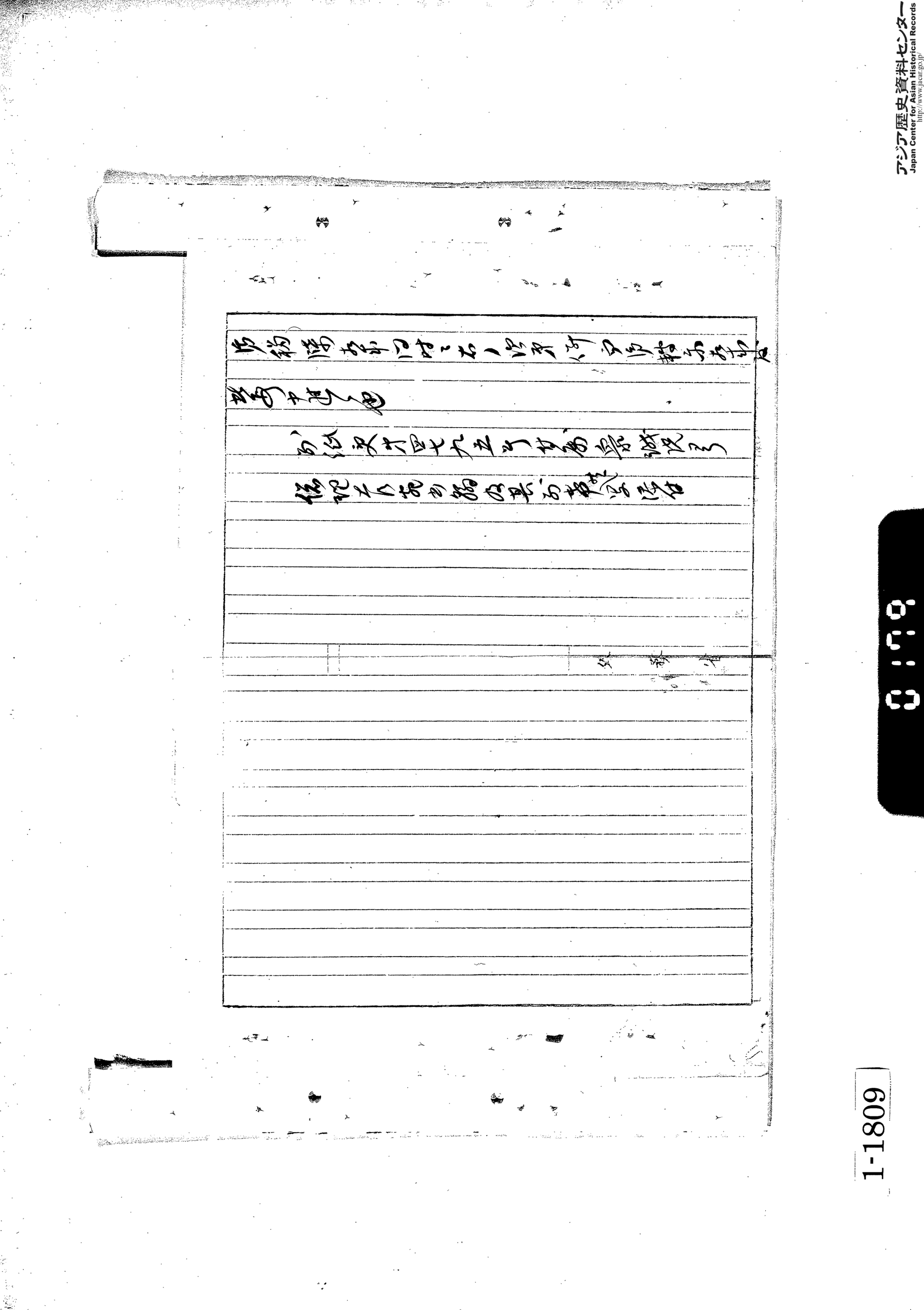
樺太炭坑ノ件ニ付御答

樺太炭坑ノ件ニ付

樺太炭坑ノ件ニ付

樺太炭坑ノ件ニ付

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1-1809

38

第一号

寫

電信第一二三号

貴第一号ノ貴信拝誦仕候

林公使ヨリ大臣

第一〇五番

清国領事ハ貴主ノ中本官ト協力シ貴官ノ諒解ヲ得タル旨ニ付棉麦世凱等ヨリ云ハレタリトテ胥吉ホ郎ニテ那相ヲ招致シ別紙ノ上陳ヲ言ヒ出シタリ要点左ノ如

外務省

一、略保証ニ関スル件

二、新任領事

三、特派紫坑ニ関シ清国ヨリ陸奥宗光ヲ紀伊守ニ代ル法官ニ委任ス極西極ノ事情ヲ

主ヘタルニ付本官ハ該炭坑ノ権利等ニ付テハ貴方ヲ煩セル如キ異事等ノ全然ナク我国所有ノ係争上当代ハ清国ナルコトヲ注意シ置タル旨ヲ答ヘ炭坑ノ件ハ尚詳ニ疑し

付ニ於テハ右条項ノ記載ハ東清線ニ関シ
テハ条約ニ基キ既ニ成立ノ権利ニ
関シ未ダ成立ノ権利ニ関シ其他ニ関シ
清国ト日本トノ間ニ協議ヲ経（十二月二十
六日ヲ以テ一八七九年以降ノ邦人）ノ如キモ
ノ該当セント認スルニ於テハ特ニ之ヲ新
スヘキ理由ナシト認メラル右御参考至ル
成タシ

外務省

至急御復命ヲ乞フ

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

39

写

在瑞西公使館

機密第受第

在瑞西公使館

通商局

明治四十一年六月二十四日

第一課

買上賞の

明治四十一年四月二十六日　政務局

在瑞諾日本公使館

機密第受第

摂津紡績株式会社ハ明治三年三月百万弗ノ資本ヲ以テ設立セラレタル株式会社ニシテ其株券ハ孰レモ倫敦ニ於テ発行セラレタル株券

1-1809

0:83

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1-1809

0:84

在勤日本使節

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

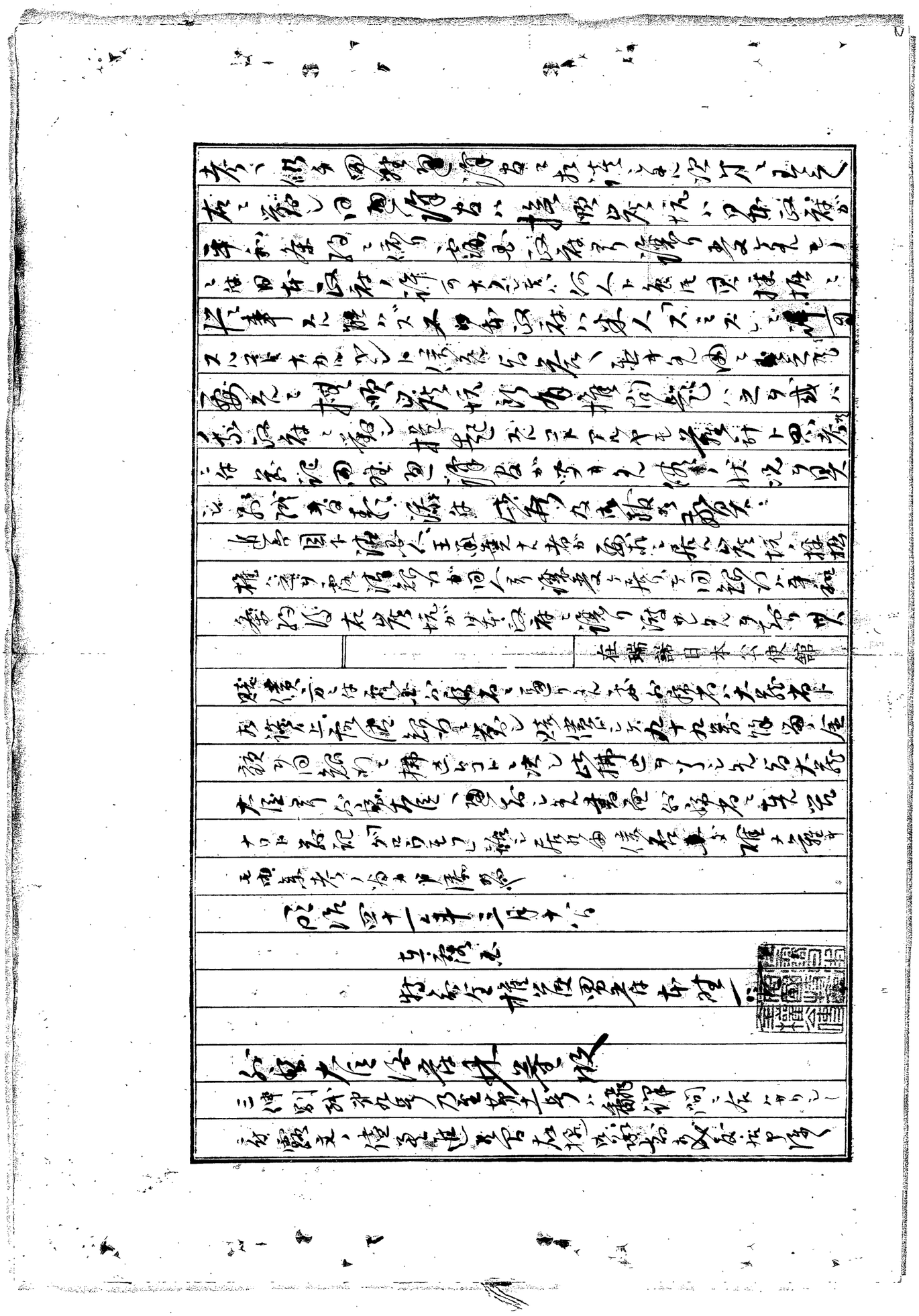
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1-1809

C 1809

普国ノ商人トテコンセイエデ、メ、アクエルヒノ信用
ヲモ失ヒタルガ故ニ其ノ債主ハ其ノ債ヲ償ハ
ザル事ヲ知リテ一年又ハ半年ノ猶予ヲ与ヘタリ
ノ人物ヲ悪ムコト甚シク夫ガ為メニ一方ニハ「心ビイノフ」
組合会社ガ其ノ債主ニ対シ賠償ヲ要求シ
ミ一方ニハ自己ノ国債ヲ国債ヲ売ラントスル者ガ如カン
今社ノ理論ニ拠レバ不合法ノモノタルコトヲ信シ接吻
拒ヲ法律ト解シ「クロパツキン」ノ如キ同様ニ無論ト称シテ
陸軍省ノ改敵ヲ仕ノ如キ同人ガ同時ニ資産ノ顧ノ事
訴権ノ為ニ同人ガ同時ニ資産ノ顧ノ事
情ヲ探シ又同者ニ要求シ庶ノ者ニ
ヲ与ヘタル理由ハ其ノ社ノ目元ノ接吻
ノ接吻ガ本社ノ会社ノ目元ノ接吻
ノ債主ガ本社ノ債主ニ対シ三年
ノ債主ハ其ノ債主ニ対シ三年
権利ハ何ノ時ニ債ヲ償ハ
ノ債ハ其ノ債ヲ償ハ
ノ債ハ其ノ債ヲ償ハ
ノ債ハ其ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1-1809

別紙第一号
譯文

譯文

明治維新一八七〇年五月廿一日

下ニ署名セル吾々即チ將軍「ヒョトル、パウロウチ」、「ゲッセル」ロウチケ、イグナチエフ「侍従將官」、「アレキサンドロウチケ、ゲンドリコフ」「侍従武部長伯爵」、「ワシリー、アレキサンドロウチケ、アベザ」「公爵」「フェリクス、フェクソ海軍大將」、「アレキセイ、ミハイロウチケ、「ソウチケ、ユスポフ」「伯爵」、「スマローコフ、エリストフ」、「休職近衛大佐」ウラゲミヤ、ミハイロウチケ、ウオロリヤンリヤンスキー」「ディストウチテリコイ、スタートスキー」、「ウエトラフ」「四等文官」「ニコラス、ガウロウチケ、マチエニン」「并ニ近衛騎兵ノ「マリヤ、フェドロウナ」「皇后陛下聯隊」ハ大使ノミハイル、アポロノウチケ、セレブリヤコフ」ハ露國極東森林会社ノ名義ニ資本金額ノ六分ノ四ニ相當スル株式ヲ組織シ茲ニ其假契約ノ締結ヲ、本会社ハ清州、朝鮮及ビ沿海州ニ於テ各種森林借款、鑛山業、漁業、獣獵、航海運業、商業其他各種ノ商工業ニ從事スルヲ目的トス、本会社資本金額ハ六分月以内ニ決定セラルベシ、其必要ニ應シ会社創立者ニ申シ納付セラルベシ、協議ノ上創立者中ノ一名ヲ指定シテ会社ノ代表者タラシム、他ノ出資者タラシム而シテ出資者ハ自己ノ負担スベキ出資額ノ範囲ニ對シテ責任ヲ帯ビ為ス以外ハ会社ノ負債ニ對シテハ一身上又ハ財産上一切ノ責任ヲ免ル、モノトス、会社ノ事務章程、創立者ノ權利義務、事務所組織、決算報告及ビ会社内部ノ整理等ハ本契約署名ノ日ヨリ六分月以内ニ創立者全部協議ノ上ニテ定メラレタル上制規ノ手續ヲ經

在露國日本公使館

結了、

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ベキモノトス、而シテ其期限ノ経過スル迄上記ノ創立者一同
ハ皇室主獨頭「イワン、ペトローウチケ、バラーショフ」ニ有ラユル
場合ニ於テノ会社ノ代表者トシテ行動スルノ権利義務
ヲ授ケ会社ノ資金ヲ出、動産、不動産並ニ名権
ノ借款及ビ借地ノ取得並ニ会社ノ負債、財産及ビ業
務ノ處理並ニ支配ノ権ヲ與フ但シ各件ニ對シ
適法ナル報告ヲナスベキモノトス而シテ理事者トシテ侍
従海軍少將「アレキセイ、ミハイロウチケ、アバザ」及ビ休職近衛
大佐「ウラヂミル、ミハイロウチケ、ウオンリャルスキー」「ヒ」等ヲ
彼等ニ制規ノ委任状ヲ給シ事務ヲ管理シ事務
員ヲ採用シ報告類、財産、金銭ヲ管理シ且ツ其
他ノ事業経営上必要ナル行為並ニ手續等ヲナスコ
トヲ委任ス

侍従海軍少將「アレキセイ、ミハイロウチケ、アバザ」
休職近衛大佐「ウラヂミル、ミハイロウチケ、ウオンリャルスキー」
騎兵大將伯爵「アレキセイ、パウロウチケ、イグナチエフ」
近衛騎兵「アリヤ、スドロウ」皇太子陛下聯隊附大佐
「ミハイル、アポロノウチケ、セルブリヤコフ」
ディストウチテリエイ、スタトスキー、サウエトニク（四等文官）「ニコライ」
ガウリロウチケ、マナユコ」
武部長伯爵「ワシリイ、アレキサンドロウチケ、ゲンドリコフ」
公爵「フェリクス、フェリクスウチケ、ユスポフ（伯爵スマロコフ、エリストン）」
侍従將官「ピョトル、パウロウチケ、ゲッセ」
次ニ署名セル者ハ右ノ各署名ガ「モスコー」及「ペテルブルグ」通リ
第一号「ギルド」ナル「ペテルブルグ」公証人「ピョトル、ミハイロウチケ、アルツイブセフ」
ノ公証役場ニ於テ該人事務代理タル者「ミハイル、

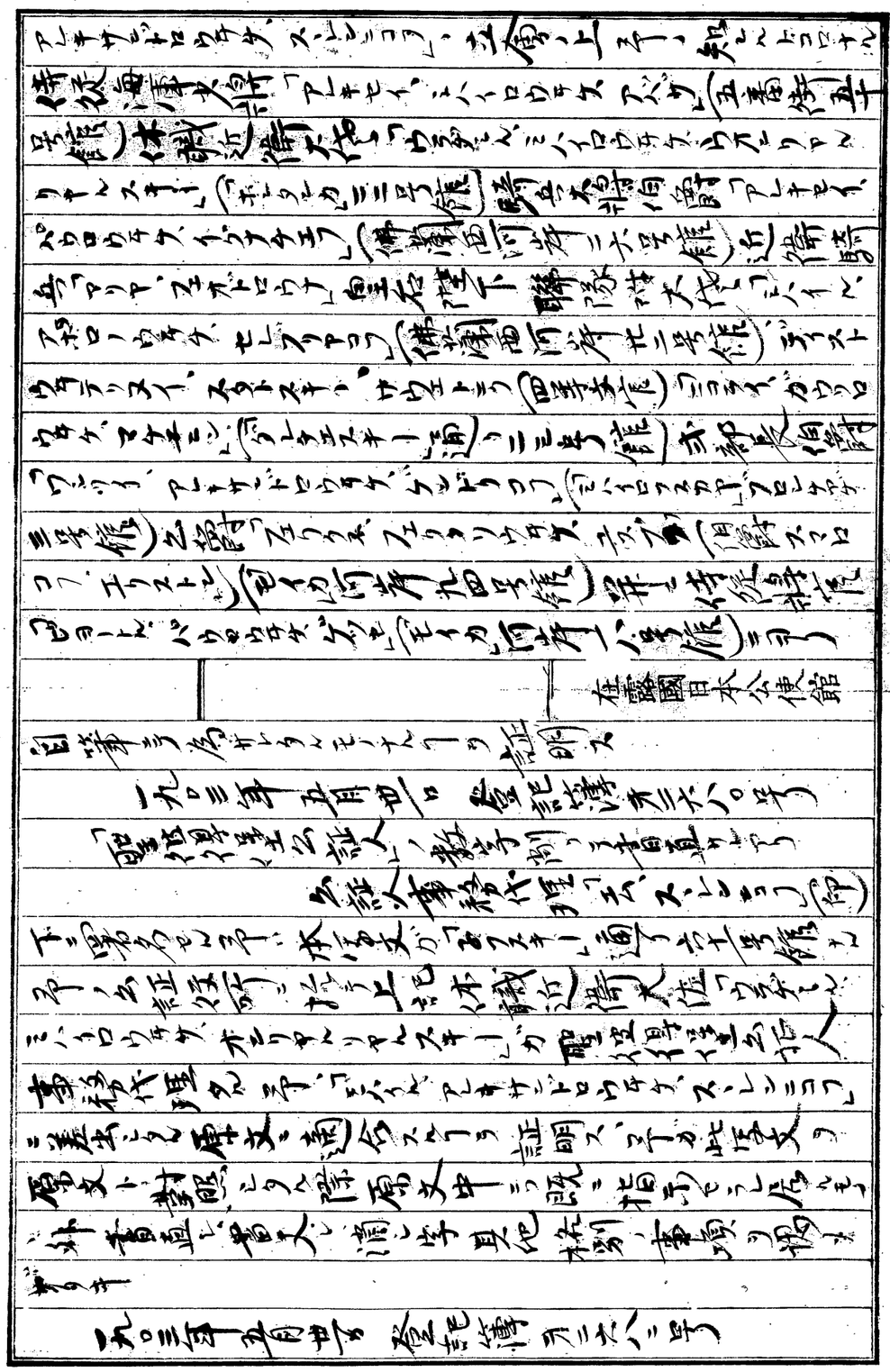
在露國日本公使館

1-1809

0:89

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1-1809

原本ニハ一留ノ証券和紙ノ貼付アリ

公証人事務代理「スレニヨリ」印

下ニ署名セル旅順地方裁判所書記ニシテ且ツ旅順市ニ於ケル公証人心得タル予「イウスケン、フェドロウヰチ、ケヨルノドウラフスキー」ハ本写文ガ一九〇三年五月廿一日聖徒得保堡公証人事務代理フスレニヨリ」ガ登記簿第二六八号ニテ証明シタル写文ニシテ地方裁判所ノ事務所ニ於テ旅順市ニ住セル陸軍中佐「ニコライ、ニコラエヴヰチ、スタンリー」ニヨリ予ニ提供セラレタル写文ニ適合セル旨証明スル予ガ本写文ハ提供セラレタル写文トノ対照シタル際後者ニ書キ直シ、書入レ、消シ字其他格別ノ事項ナカリキ、

一九〇三年六月廿五日 登記簿第八六一号

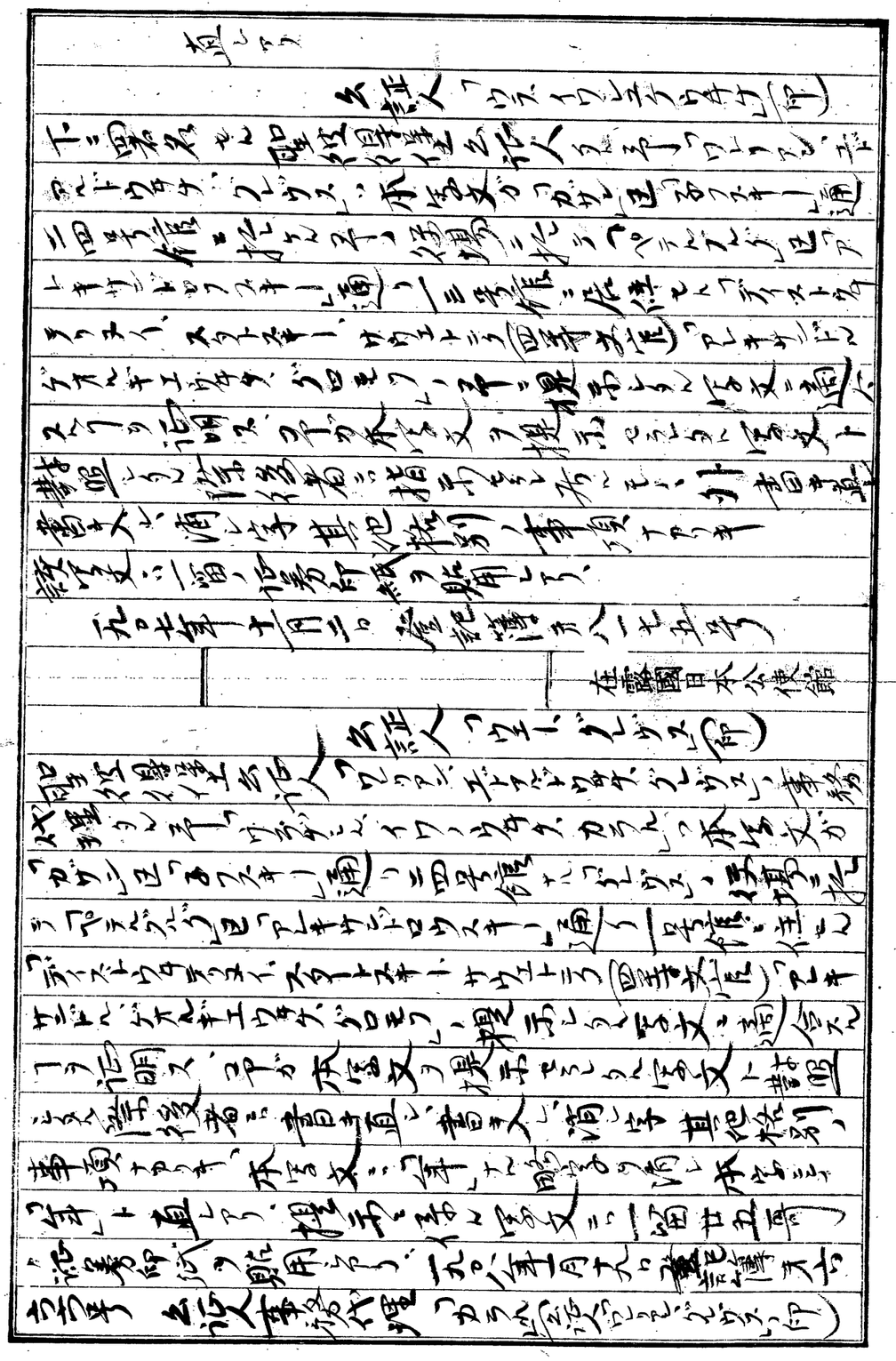
公証人心得「ケヨルノドブラフスキー」印

在露國日本公使館

下ニ署名セル聖徒得保堡公証人タル予「ウラヂミル、ケヤウエヴヰチ、イワノエヴヰチ、ケウケ」ハ本写文ガ「リテイヌイ」及ビ「ラフスキー」通ノ角ニ面シタル七十八号館ニ於ケル予ノ仮場ニ於テ「ロゲエストウエンスキー」医ニ「ラフスキー」通一二八号館ニ住居セル休職大佐「ヤコフ、フェドロウヰチ、ルビノフ」ノ予ニ提示シタル写文ニ適合スルヿヲ証明ス予ガ本写文ヲ右ノ写文ト対照シタル際後者ニ書キ直シ、書キ入レ、消シ字其他格別ノ事項ナシ

一九〇五年三月十二日 登記簿第一五九八号

本写文ニハ makrobad omnaddta ノ二字書キ



在露國日本公使館

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1-1809

別紙中之譯文

譯文

聖彼得堡一九〇六年七月七日

下ニ署名セル吾々即チ一方ニ於テハ露國極東森林会社ハ談合社、凡テノ權利幷ニ財産ノ唯一ノ所有主（復數）ヨリ侍從海軍少將「アエム、アバザ」及ビ「タイン又イ、サウエトニウ」（三等文官）「ニコライ、ガウリロウチ、マケエフ」ヲ代理者トシ他方ニ於テハ北米合衆國市民「ウヰリヤム、エドアルド、スミット」ハ自身ニテ次ノ如キ契約ヲ締結シタリ、

或ル書類ニ韓國森林会社又ハ露國極東森林鑛山会社又ハ森林会社ノ名稱ヲ用ヰタル居ル露國極東森林会社ハ清國換順界千山台地方ニ於ケル換順炭坑ノ無期限借款ヲ所有ス、右借款ハ光緒北七年七月八日盛京省將軍ノ換順炭坑会社ニ許可シタル所ニシテ炭坑ニハ自録ニ示セル如キ石造及ビ木造ノ家屋、構造物、工場、談計物、「ピヤフト」、蒸汽器械工場附属構舎幷ニ材料附属セリ、本借款ニハ一九〇三年三月十二日換順地方裁判所書記第公函人心得立會ノ上月三七七号（登記番号）ヲ締結シタル契約ニ從ヒ陸軍大佐「ヤコフ、フェドロウヰチ、ルビノフ」及ビ「ハバロフスク」商人「ケホンタイ」幷ニ其共同者ハ本事業ニ加入シ「純益ノ五分ノ一（其加入者全員ニテ）ノ配當ヲ受クルノ權利ヲ有スル旨ノ約定一項ヲ存ス仍テ露國極東森林会社ハ右換順炭坑ノ無期限借款及ビ之ニ属スル有ラユル動産ノ五分ノ四ニ對シ自己ノ有セル權利ヲ以テアム、エドアルド、スミット氏ハ露貨二百万

在露國日本公使館

1-1809

0:93

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

留ヲ以テ譲渡シタリ

予ハスミットハ凡テノ権利ニシテ今日迄露國極東森林会社ニ属シ自今予ノ所有ニ帰シタル該借款附帯ノ凡テノ権利ヲ継承シ又本契約書ニ縫ヒ付ケアリテ各当事者ノ署名シタル同録ニ記載セル本借款関係ノ各契約書、諸事件、又ハ各書類ニ列挙セル凡テノ義務ヲ遂行スルコトヲ約ス

然レトモ予「スミット」ハ露國極東森林会社又ハ「アバザ」「マケニン」両氏ノ債権者ニ対シテハ如何ナル責任ヲモ負担ヒザルト同時ニ露國極東森林会社ノ負債者タル「アバザ」「マケニン」両氏ニ対シ支拂フヘキ金銭ヲ受クルノ権利ハ予ノ享有ヒザル所ナリ

前項ノ動産并ニ不動産ノ無欠ナリ并ニ其良ク保存セラレ居ルコトニ就テハ売却者ハ責任ヲ負ハズ只

右財産ノ現在ノ状態ノ侭ニテ之ヲ譲渡スルモノトス

本契約ノ締結ニ要スル費用ハ予「スミット」ニ於テ之ヲ負担ス

本契約并ニ之ニ関スル諸手続書及諸書類ノ原本ハ「ウラジオストク」ニ於テ之ヲ所持シ其写文ハ露國森林会社ノ代表者タル「アバザ」「ミケニン」両氏之ヲ保管スルモノトス、本契約ニ由リ得タル凡テノ権利ハ其完全ナル所有者タル「ウラジオストク」ニ於ケル露國極東森林会社或ハ其他ノモノ又ハ他團体ノ賛否ノ問フヲ要セズシテ自己一身ノ意見ヲ以テ之ヲ他人ニ売却シ又ハ譲渡スルコト勝手タルベシ

露國極東森林会社所有主侍従海軍少將「アス、エム、アバザ」并ニ「タイレスイ、サウエトーク」（三等文官）「エス、

在露國日本公使館

1-1809

0:94

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ゲー、マケニン」ノ委任ニヨリ

陸軍中佐「ニコライ、ニコラエウチケ、スタルク」

北米合衆國市民「ウチリアム、エドアルド、スミット」

下ニ署名セル聖彼得堡ノ証人「ユリアン、オレホウチケ、ザベリスキー」事務代理タル三「ワシリイ、アフリカノウチケ、ブイストロウモフ」ハ前記ノ各署名ガ「アドミラルテイスカヤ」区「ヲフスキー」通七号館ニ於ケル「ザベリスキー」ノ公証役場ニ於テ立命ノ上予ノ知ルトコロノ北米合衆國市民「ウチリアム、エドアルド、スミット」ハ自身（「アドミラルテイスカヤ」区「モイカ」河岸八一号館）又陸軍中佐「ニコライ、ニコラエウチケ、スタルク」（「ペテルブルグ」区「ボリショイ」通四九号館）ハ一九〇六年六月廿日彼得堡ノ証人「ザベリスキー」ノ役場ニ提示セラレタル侍従海軍少將「アエム、アバザ」并ニ「タイニスイ、サウエトニク」（三等文官）

「ニコライ、ガウリロウチケ、マケユニン」ノ委任状（登記番号第六二四号）ニヨリ委任ヲ受ケタル皇室主猟頭「イワン、ペトロウチケ、パラシヨフ」ノ発給セルモノニシテ一九〇六年六月廿日彼得堡公証人「ザベリスキー」ノ役場ニ提示セラレタル委任状（登記番号第六一四六号）ニ基キ各自筆ヲ以テナサレタルモノナルヲ証明ス

在露國日本公使館

一九〇六年七月七日　登記簿第六三四〇號

公証人事務代理「ウキー、ブイストロウモフ」（印）

下ニ署名セル彼得堡ノ証人「ユリアン、オレホウチケ、ザベリスキー」事務代理タル三「ワシリイ、アフリカノウチケ、ブイストロウモフ」ハ本証文ガ「アドミラルテイスカヤ」区「ヲフスキー」通七号館ニ於ケル「ザベリスキー」ノ役場ニ於テ前記「スタルク」氏ニヨリ予ニ提示セラレタル原文ニ適合セルヲ認メタル旨ヲ本証文ノ末尾ニ

1-1809

0195

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

原本ト對照シタル後者ハ書キ直シ、書キ入レ消シ字其他格別ノ事項ナカリキ、原文ハ一才留ノ仏蘭西代理ヲ以テ用ヒアリ、

元治六年七月七日　登記簿第六三五ノ号

公証人事務代理「ブイストロウモフ」

在露國日本公使館

1-1809

0:96

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙第壱号
譯文

譯文

千九百三ヶ年三月一日下ニ記名セル拙者共退役陸軍大佐ヤーコフ、ヲオドロウイチ、ルビーノフ及ビハバロフスク市一等高紀鳳台ト陸軍中佐アレクサンドル、セメオーノウイチ、マドリートフトノ間ニ左ノ通リ本契約ヲ締結セリ

一、光緒二十七年七月八日咸京將軍增祺ハ北京政府ノ許可ヲ經テ商人間ニ資本ヲ募集シ極順界千山台地方ニ於テ南方ヨリ北方境界マテ更ニ南方及ビ北方ニ派遣スル小河ヲ境トシ其東方ニ於テ同界内石炭ヲ布區全部ト盲リ無期限ニテ石炭採掘ニ着手スル權ヲ

在獨日本公使館用

官吏公爵寿及ビ顔之樂ニ委任シ右關シ光緒二十七年八月八日咸京有住民ニ公告セリ

前述ノ目的ヲ以テ株主十人ヲ選擇セラレタル株式會社ハ退役陸軍大佐ヤーコフ、ヲオドロウイチ、ルビーノフヲ取締役ニ、ハバロフスク市一等高紀鳳台ヲ其補助役ニ撰定シ同年十一月一日即露曆千九百一ヶ年十一月廿八日將軍ノ許可ヲ經テ極順炭坑會社（極順爆破公司）ナル名称ヲ附シタリ

右炭坑會社ハ前記地方ニ於テ同會社ヲ獲得シタル石炭其他諸礦採掘ノ權

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

利益ニ同地ニ現存セル同會社所屬ノ諸
造營物ハ之ニ總財產目錄ニ添エ本
年二月廿二日ノ株主會議ニテ多數決ニ
テ確定シタル決議ニ基キ且ツ同決
議ニ於テ撰定セル會社ノ代理者ハビー
ノフ及紀鳳台ノ兩人ヲ選テ陸軍中
佐マドリートフニ
讓渡スコト

二、之ニ對シ陸軍中佐マドリートフハ

(イ) ハビーノフ及紀鳳台ヲ介シ總計五十株
ヲ所有スル撫順炭坑會社ノ株主ニ對シ
該炭坑ノ獲得及ヒ其設備ニ注入
シタル經費ノ賠償トシテ本契約締結
在獨日本公使館用

(ロ) 元撫順炭坑會社株主ニハ前記地方
ニ於ケル石炭其他諸礦採掘ノ設備
及ヒ其營業ニ關聯セル
諸種ノ買入シ及ヒ造營物其他炭
坑ニ至ル鐵道支線ニ對シ注入スル
資本ノ五分ノ一ヲ新業ニ參與ス
ルノ權ヲ賦與ス但シ前記資本五
分ノ一ノ拂込方ハ元撫順炭坑會社株
主カ新業ヨリ受領スヘキ純益ヲ差控
エ置キ之ニテ拂込ムヘキモノトス

(ハ) 該事業ニ參與スル程度ニ相當シ新
事業託益ノ五分ノ一即二十パーセントヲ

1-1809

0:98

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

前記元株主ニ與フルモノトス

三、撫順炭坑會社ハ名称ハ該炭礦ノ新企業者ニ移轉スルトモ依然変更スルコトナシ

四、陸軍中佐マドリートフヒハ撫順炭坑ノ新企業者ニ讓渡スノ權ヲ有スル且元撫順炭坑會社ノ株主ニ對シ本契約ニ於テ言明セル權利ハ斯業ノ新企業者ニ讓渡ストモ依然其効力ヲ有シ且右株主ハ其持分ニ比例シ事業上企業ニ參與スルノ權ヲ留保スルモノトス

五、若シ何等カノ理由ニヨリ陸軍中佐マドリートフヒ又ハ其継承者炭坑採掘ノ中止シ三ヶ年以内ニ之ノ再興セサル場合ニハ石炭其他ノ諸礦採掘ノ為メ本契約ノ下ニ讓渡シタル地區ハ之ニ建設シタル諸設備物ト共ニ無償ニテ撫順炭坑會社ノ元株主ニ移轉スルモノトス

六、陸軍大佐ルビーノフヒ及商人紀鳳台ハ該事業ノ情態ニ付キ報告ヲ受ケツツ權ヲ留保ス

七、元撫順炭坑會社ノ株主カ其持株ヲ他人ニ讓渡サントスル場合ニハ豫メ之ヲ他ノ株主ニ勧ムルモノトス

若シ他ノ株主カ之ヲ取得スルコトヲ辞退シタル時ハ讓渡サレトスル株主ニ對シ國民

在獨日本公使館用

1-1809

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

九、清國ハ露國臣民ニノミ清國臣民ニハ露國臣民若クハ清國臣民ニ讓渡スコトヲ得

八、本契約ニ規定シタル撫順炭坑會社株主ノ權利ハ其譲渡者ニ移轉スルモノトス

九、若シ撫順炭坑會社ヲ直接ニ業ヲ營シタル時代「マドリートフ」即チ陸軍中佐「マドリートフ」ニ引渡カサリシ以前ニ存シタル何等カノ負債若クハ約束アルトキハ陸軍中佐「マドリートフ」並ニ其譲渡者ハ之ヲ負担スルコトナク負債償還及ヒ約束履行ノ義務ハ元撫順炭坑會社株主ニ於テ之ヲ負担スヘキモノトス

十、本契約ハ兩當事者ニ於テ神聖且ツ嚴格ニ遵守スヘシ

本契約ノ原本ハ陸軍中佐「マドリートフ」若クハ其譲渡者ニ於テ之ヲ保存シ陸軍大佐「ルビーノフ」及ヒ一等高紀鳳台ニハ証明付キノ謄本ヲ交付スルモノトス

本契約ニハ退役陸軍大佐「ヤーコフ、フェオドロウイチ、ルビーノフ」「ハバロフスク」一等高紀鳳台陸軍參謀中佐「アレクサンドル、セメオーノウイチ、マドリートフ」記名セリ

千九百三十三年三月廿日旅順口ニ居住シ本職ノ知ルトコロニシテ法律行爲ヲ爲スノ能力ヲ有スル退役陸軍大佐「ヤコフ、フェオドロウイチ、

在獨日本大使館用

1-1809

0200

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルビーノフ」「ハハロフスク」市一等商記屬台、陸軍
參謀中佐「アレクサンドル、セメオノウイチ、マドリーナ
トフ」ハ旅順口地方裁判所事務所ニ於テ
本契約ヲ本職タル公證人代理旅順口
地方裁判所書記「イウスチン、ヱガドロウイチ、チュル
ノヴ、プロフスキー」ニ提示シタルニヨリ本職ハ「ビー
ノフ」「記屬台」マドリードフ」ニ公証人規則第
一三七条ヲ示シ同人等ハ本職ノ面前ニ於
テ本契約ニ自署署名シタルコトヲ証明ス
右証明料トシテ市ノ收入ニ屬スル二百留ヲ
徵收セリ
登記番号第三七七号
此証明中「十一日」ヲ塗抹シ「十二日」ト記入セリ
在獨日本大使館用
公証人代理「チュルノヴ、プロフスキー」印

千九百三年七月三十日下ニ記名セル出者ハ本
契約ニ關スル総テノ権利及ヒ義務ヲ露国
極東森林會社ニ讓渡シタル旨裏書ヲ為
セリ

陸軍參謀中佐「アレクサンドル、セミオノウイチ、マドリーナフ」
下ニ記名セル本職ハ前記裏書ガ千九百三
年七月三十日「モスコフスカヤ」區「子フスキー」通第
六十一番聖彼得堡公証人「ピオトル、ミハイロウイチ、
アルツィブシェフ」ノ事務所ニ於テ同人代理タル
本職「ミハイル、アレクサンドロウイチ、スレンニエフ」ノ面
前ニ於テ本職ノ知ルトコロナル「モスコフスカヤ」区「子
フスキー」通第五十一番居住陸軍參謀中

1-1809

020:

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

佐「アレクサンドル」セミオーノウィチ、マドリートフ」ノ記載シタルモノナルコトヲ証明ス

登記番号ノ第三七〇五号

公証人代理「エム」スレンコフ」

下ニ記名セル本職ハ此謄本ガ「マドミラルテイスカヤ」區「ニェフスキー」通第七番本職タル聖彼得堡市公証人「ユリアン」オーシポウィチ、ザベリスキー」ノ事務所ニ於テ在「ラズデェスツヴェンスカヤ」區「ゾナアメンスカヤ」廣小路ノ旅館「セェヴェルナヤ」ニ止宿セル陸軍大佐「ヤコフ」ベオドロウィチ、ルビイノフ」氏ヨリ本職ニ提示シタル原本ト相違ナキコトヲ証明ス

原本ト謄本トヲ照合シタル上改行、付記塗抹字及ヒ何等特異ノ点ナカリシ

原本ニハ収入印紙二百二十留ノ貼付シアリ

千九百四十年十月二十日

登記番号ノ第八四二二号

公証人「ザベリスキー」印

下ニ記名セル本職ハ此謄本ガ「ペテルブルグスカヤ」區「アレクサンドロフスキー」通第十三番居住「デイストウィテリヌイ、スタートスキー、ソウエトニック」「アレクサンドル、ゲオルギエウィチ、グロモフ」ヨリ「カザンスカヤ」區「子フスキー」通第二十四番本職タル聖彼得堡市公証人「ワレリアン、エヴアルドーウィチ、グレフス」ノ事務所ニ於テ本職ニ提示シタル謄本ト相違ナキコトヲ証明ス

在獨日本公使館用

1-1809

0202

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本職ニ提示シタル謄本ト此謄本トヲ照合シタルニ提示シタル謄本ニハ改訂、附記、塗抹字及ヒ何等特異ノ点ナカリシ此謄本ニハ第二頁ニ於テ四ヶ所塗抹シ Secretaire ヲ改訂シ第四頁ニ於テ Secretaire ヲ改訂セリ提示シタル謄本ニハ收入印紙一箇貼付アリ

千九百七十年十一月二日

登記番号第八一七九号

公証人 ウエ、グレフス 印

下ニ記名セル本職ハ此謄本カ「カザンスカヤ」区「ブラスキー」通第二十四番屋敷得登記公証人「ワレリアン、エヴアルドヴイチ、グレスス」ノ事務所ニ於テ「ペテルブルグスカヤ」区「アレクサンドロフスキー」通第十三番居住「ディエストウイテルヌイ、スタートスキー、ソヴエートニツク」「アレクサンドル、ゲオルギエヴイチ、グロモフ」ヨリ上記公証人代理ナル本職ヴラヂミール、ナウロノウイチ、カラリ」ニ提示シタル謄本ト相違ナキコトヲ認ム

在獨日本大使館用

提示シタル謄本ト此謄本トヲ照合シタル時提示シタル謄本ニ於テ前ニ記載ノ点ノ外改訂、附記、塗抹字及ヒ何等特異ノ点ナカリシ

提示シタル謄本ニハ收入印紙一箇二十五帝貼ナシアリ

千九百八十一年一月十一日

1-1809

0203

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

登記番号第三四五号

公証人代理カウリ　印

在獨日本公使館用

1-1809

0204

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/